

令和2年1月31日

佐々町 町民意識調査結果

1. 調査目的

第7次佐々町総合計画、施策の検討に反映するための基礎的データを得ることを目的として、町民の日常生活の中で感じている意見や希望、要望などのニーズを定量的に把握した。アンケート項目内には、公共施設マネジメント、人口減少や地方創生に関する分野も盛り込み、実施した。

2. 調査方法

対象・方法	期間
<ul style="list-style-type: none">● 町在住の18歳以上の町民（2,000名を対象）● 郵送方式（2週間の留め置き）● 回収率26.0%（520名）	令和元年11月中旬：配布 令和元年12月6日：回答締切

3. 調査項目

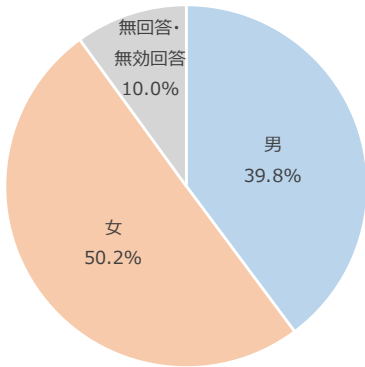
調査項目は、以下のとおりである。

質問項目			問番
属性		性別／年齢／職業／居住年数／以前の居住地／65歳以上の同居の有無／現在の居住地／生活行動先／目的別交通手段	問 1
定住意向	住みよさ	住みよさと感じているかどうか	問 2
	住みやすさ・住みにくさの理由	(限定質問) 住みよさと感じられる理由や魅力 (限定質問) 住みにくさと感じられる理由	問 3
施策の目標像	まちの将来像	特に重要と思われるまちの状態 (①医療福祉、②教育・文化・人権、③安全、④環境共生、⑤生活環境、⑥産業・観光、⑦交流・コミュニティの7分野ごと)	問 4
		最も望む将来のまちの姿	問 5
取組の評価	各施策の満足度・重要度	現状の満足度と将来の取組としての重要度	問 6
行財政改革	行財政改革	行財政改革を取り組む上で重要なこと	問 7
	公共施設の利用頻度	過去1年間にどの程度利用したか (インフラは除く)	問 8
	施設の縮減に対する意向	今後の公共施設はどうあるべきか (量に対する考え方)	問 9
	公共施設の維持管理策	公共施設の建替えや維持管理へどのように対処すべきか	問 10
定住促進		若者・子育て世代のU・I・Jターンや定住を促進していくための強化すべき取組はなにか	問 11
協働	情報提供	情報提供方法について強化すべき取組はなにか	問 12
	町民参画の工夫	町民のまちづくり参画を図る上で重要な取組はなにか	問 13
キーワード		今後、佐々町がめざすまちの姿を表すものとして、どのような「言葉 (キーワード)」がふさわしいか	問 14
自由回答			問 15

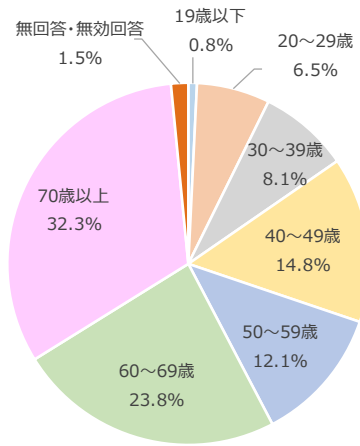
4. 調査結果

4-1 属性

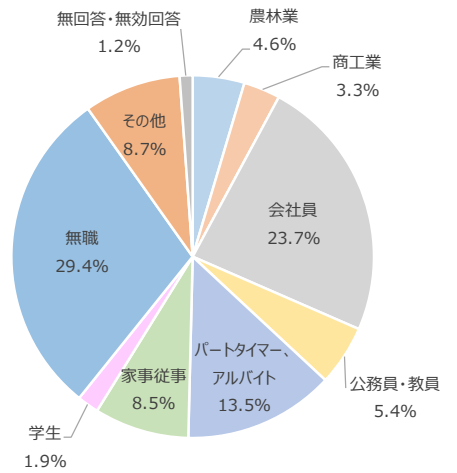
【性別】



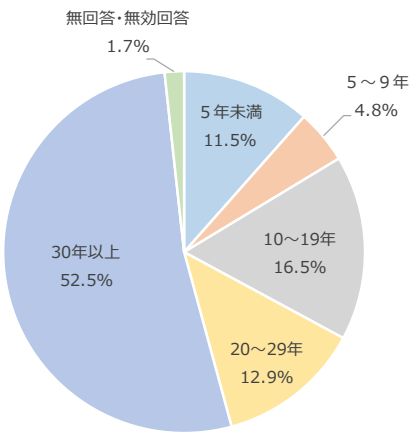
【年齢】



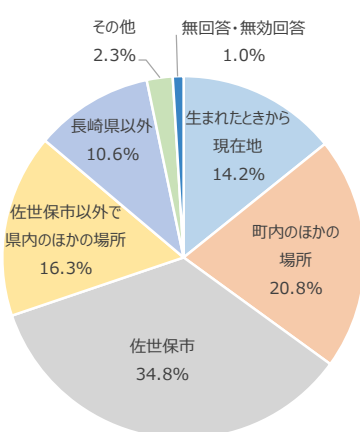
【職業】



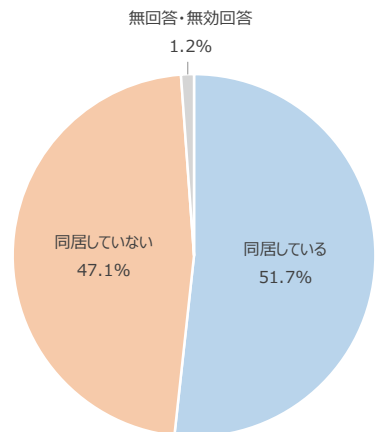
【居住年数】



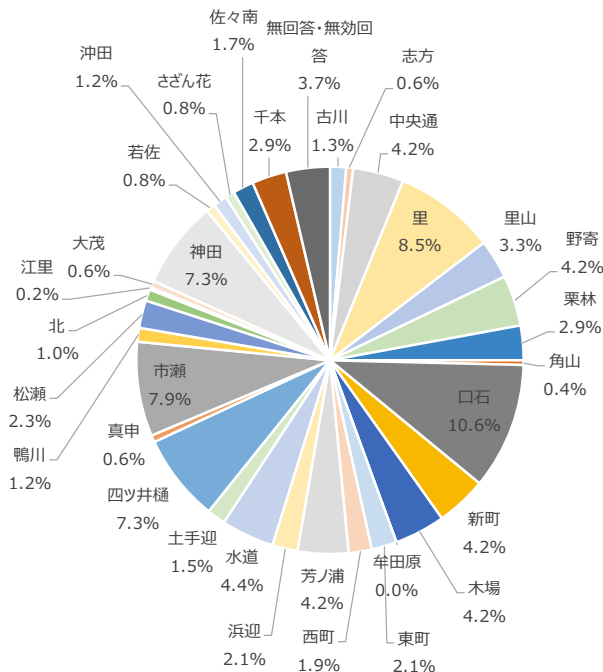
【前居住地】



【高齢者同居】



【町内区分】

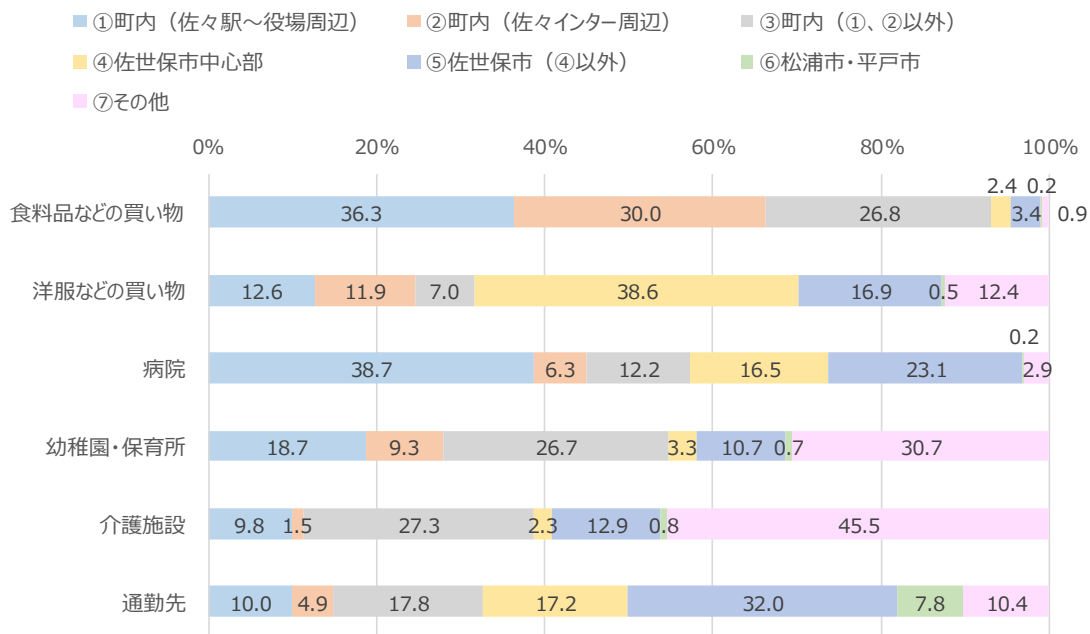


(問 1 ②、③) 日常生活において行動・利用する外出先および外出先への移動手段

【日常生活において行動・利用する外出先】

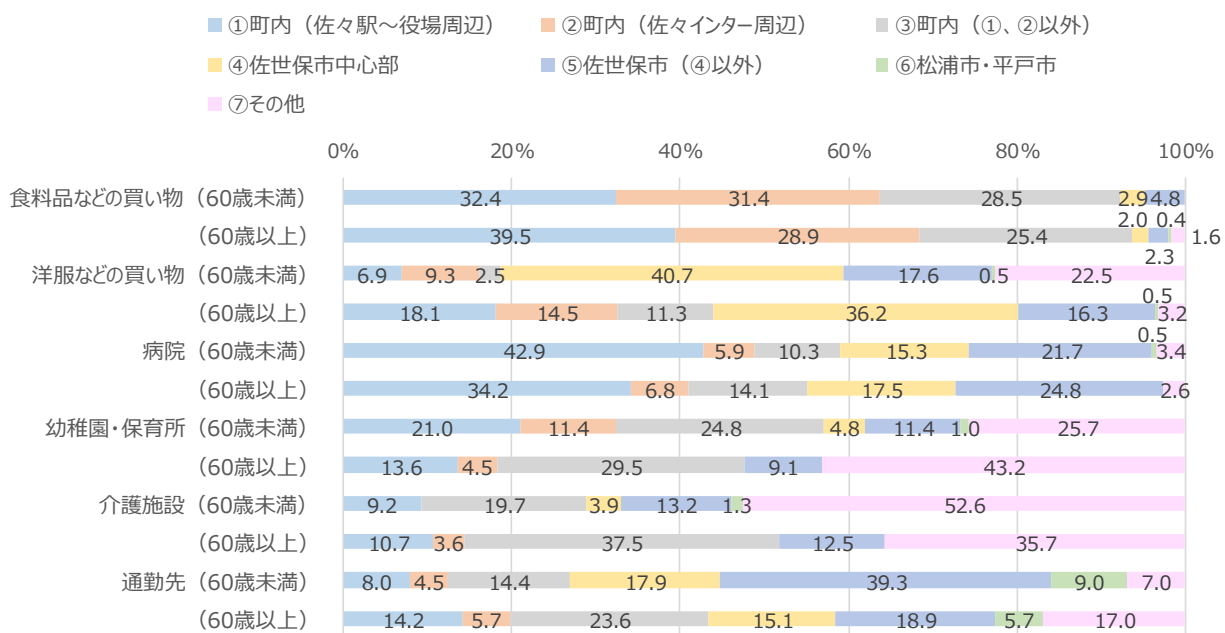
(全体)

- ・食料品などの買い物先は、9割以上が町内となっている。
- ・洋服などの買い物先は、「④佐世保市中心部」が多い。
- ・病院および幼稚園・保育所は、「①町内（佐々駅～役場周辺）」が多い。
- ・介護施設は、「⑦その他」の割合が多くなっている。
- ・勤務先は、「⑥佐世保市（④以外の佐世保市内）」の割合が多くなっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

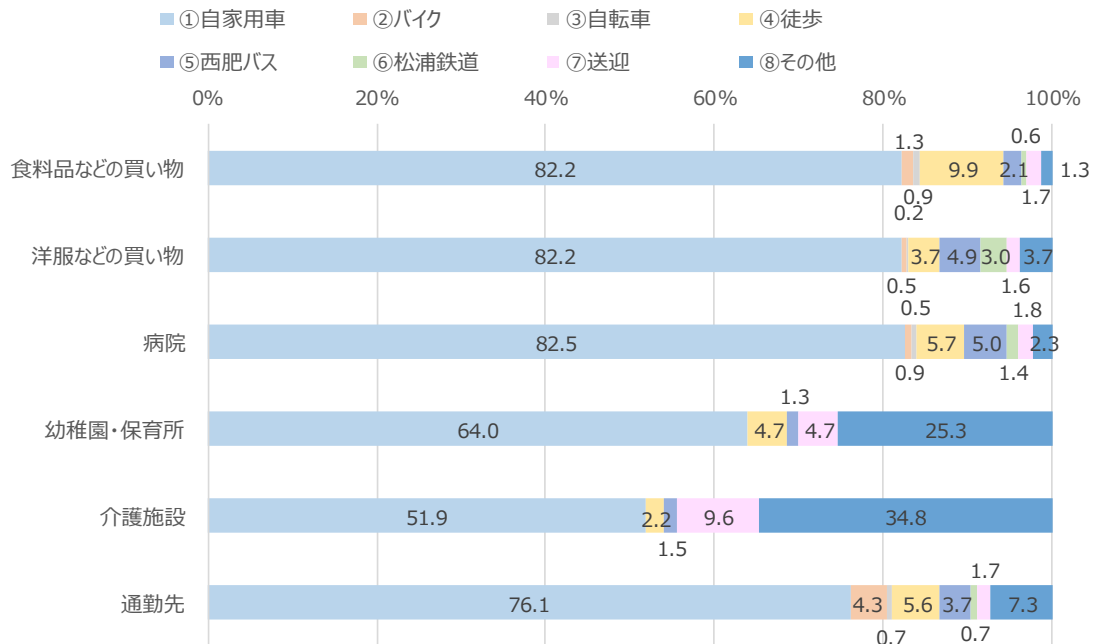
- ・洋服などの買い物先は、60歳以上では、「①町内（佐々駅～役場周辺）」の割合が高い。
- ・通勤先は、60歳未満では、7割程度が町外となっている。



【日常生活において行動・利用する外出先への利用手段】

(全体)

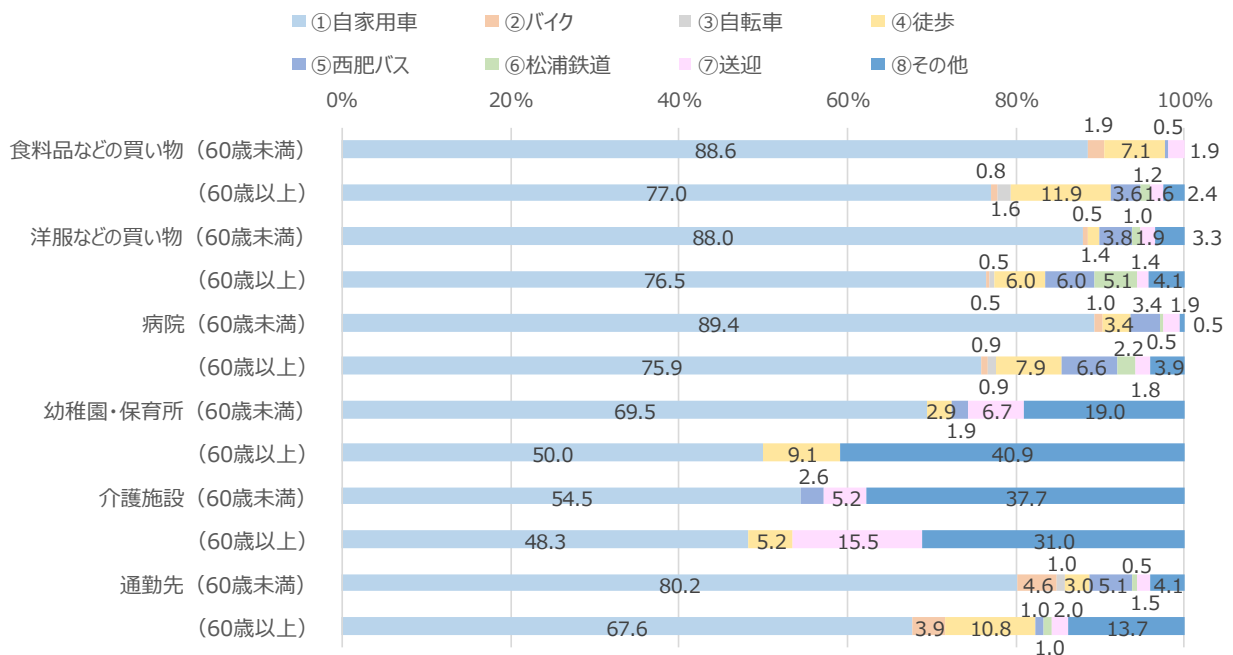
・いずれの外出先も「①自家用車」の利用が過半数を超え、特に、食料品などの買い物、洋服などの買い物、病院への自家用車利用は、8割以上となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

・60歳未満、60歳以上ともに、全体とほぼ同じ傾向を示している。

・なお、介護施設への利用手段については、60歳以上では、送迎の割合が高くなっている。



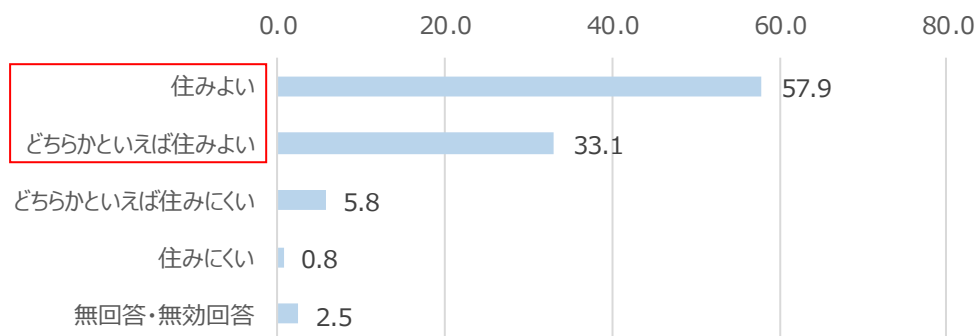
4-2 定住意向

(問2) 現在の定住意向

① 住みよいか

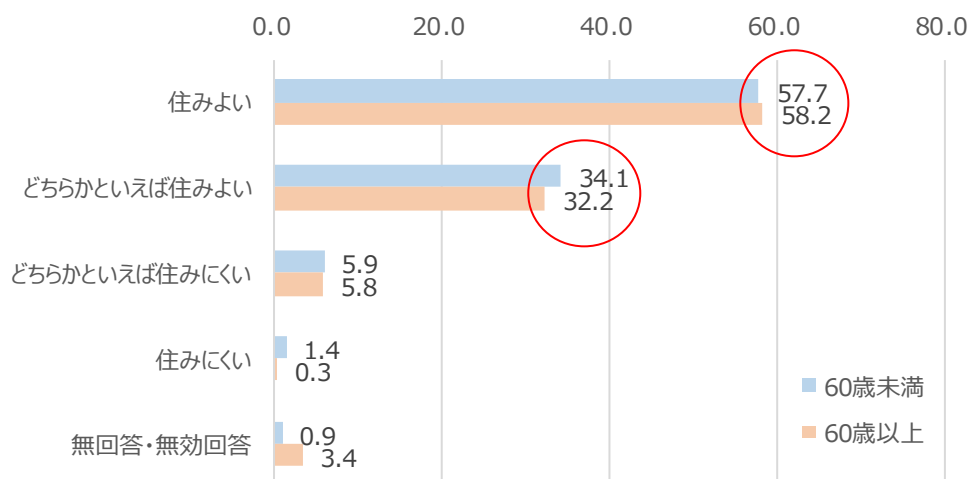
(全体)

・「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせた9割以上が、住み心地がよいと回答している。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

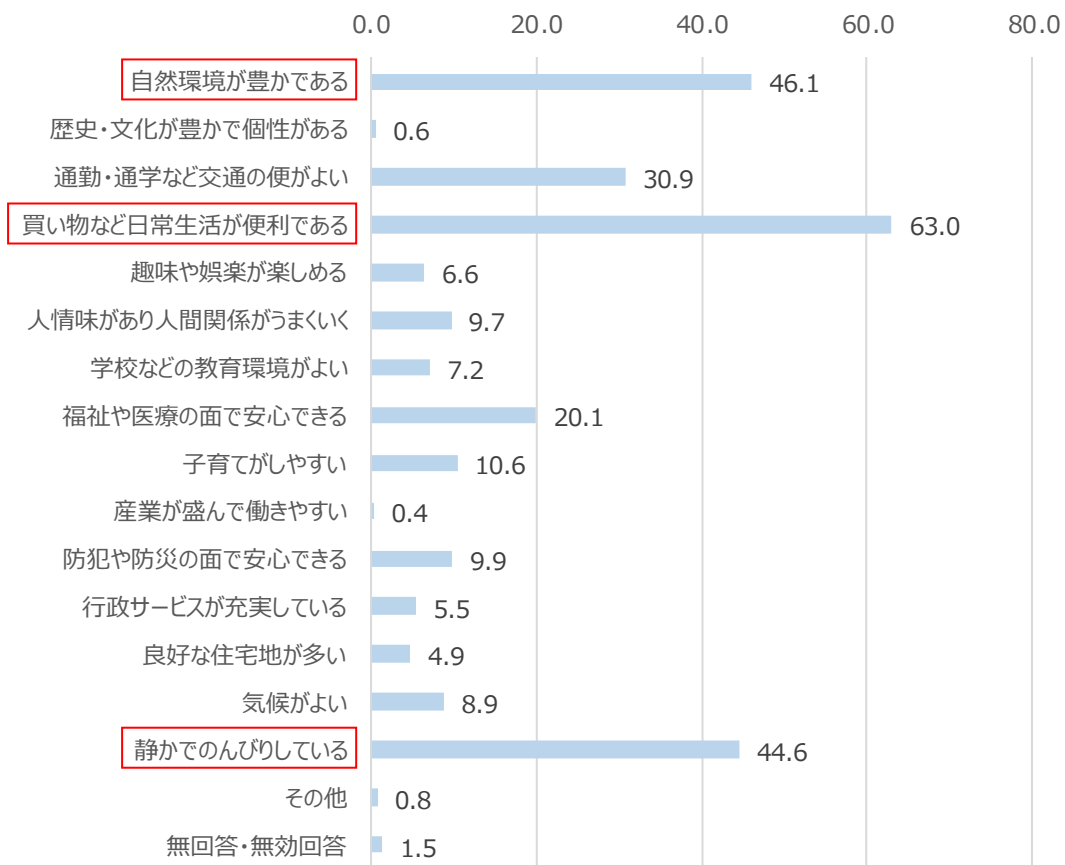
・60歳未満、60歳以上ともに、全体と同じ傾向を示し、9割以上が住み心地がよいと回答している。



② 住みよいと感じる理由

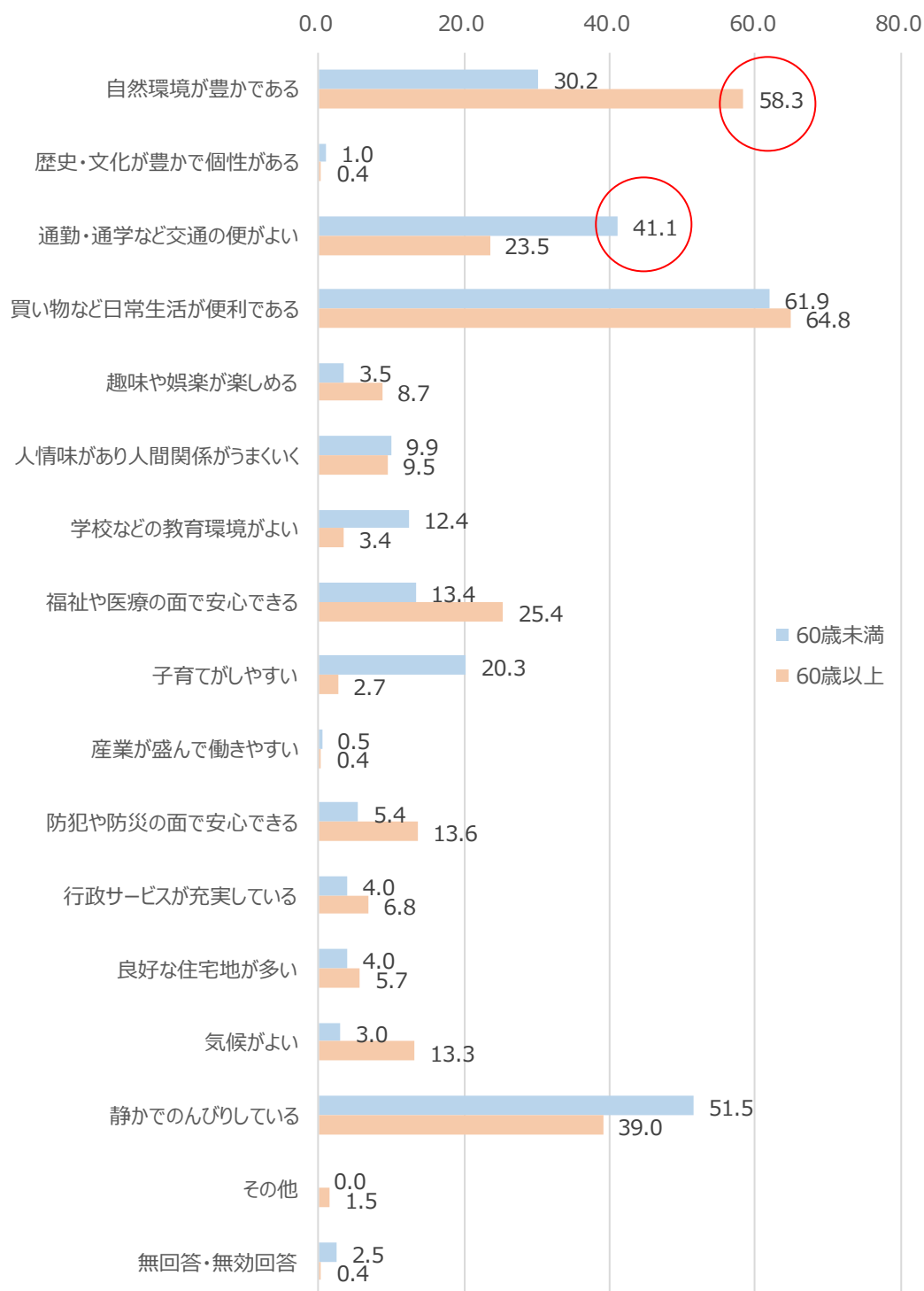
(全体)

・「買い物など日常生活が便利である」が63.0%で最も多く、次いで「自然環境が豊かである」(46.1%)、「静かでのんびりしている」(42.9%)の順で、この3つが突出して高い。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

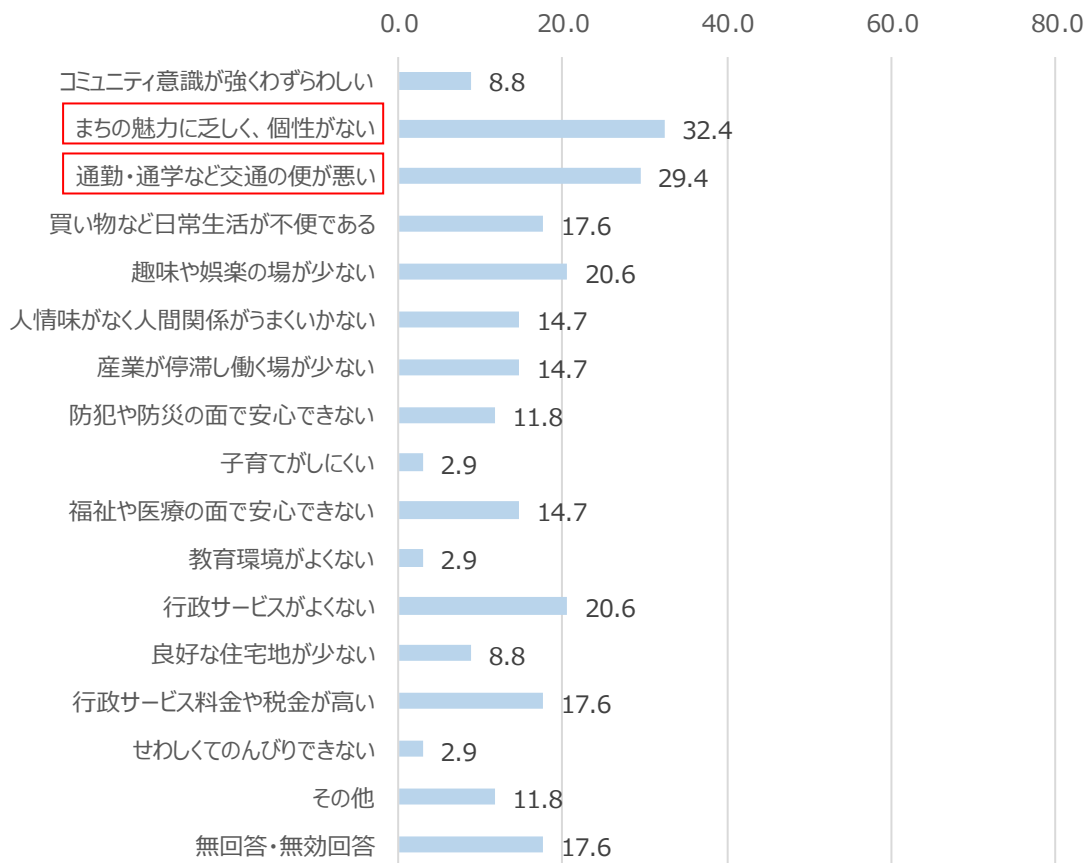
- ・60歳未満では、「通勤・通学など交通の便がよい」と回答した割合が比較的高い一方で、60歳以上では、「自然環境が豊かである」と回答した割合が高くなっており、それぞれの世代によって住みよと感じる観点が異なっていることがうかがえる。



③住みにくいと感ずる理由

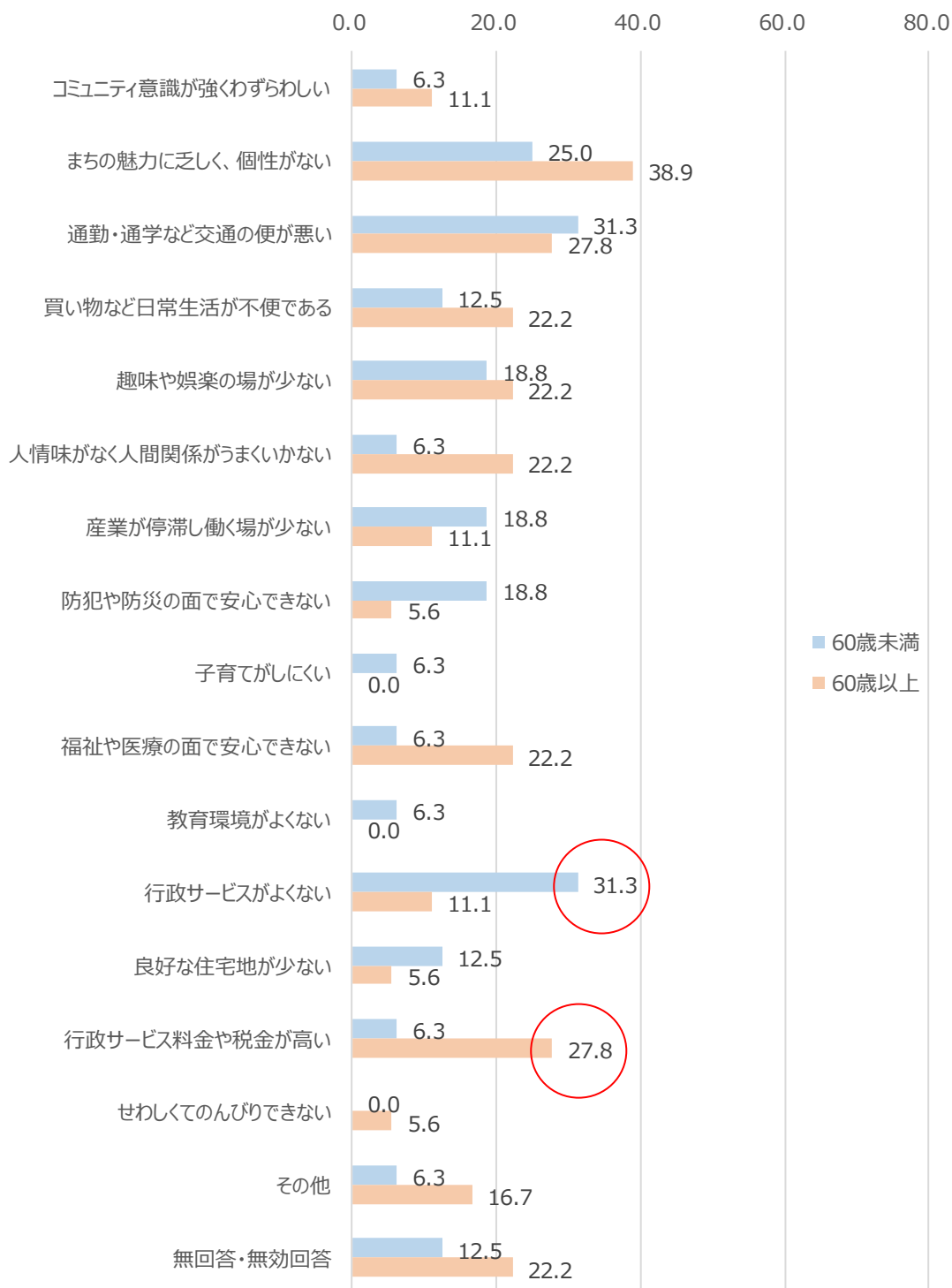
(全体)

・「まちの魅力に乏しく、個性がない」(32.4%)と「通勤・通学など交通の便が悪い」(29.4%)の割合が高くなっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・ 60歳未満では、「行政サービスがよくない」と回答した割合が比較的高くなっている一方、60歳以上では、「行政サービス料金や税金が高い」と回答した割合が高くなっており、受益と負担のバランスに関して、世代による感じ方の違いがあると考えられる。



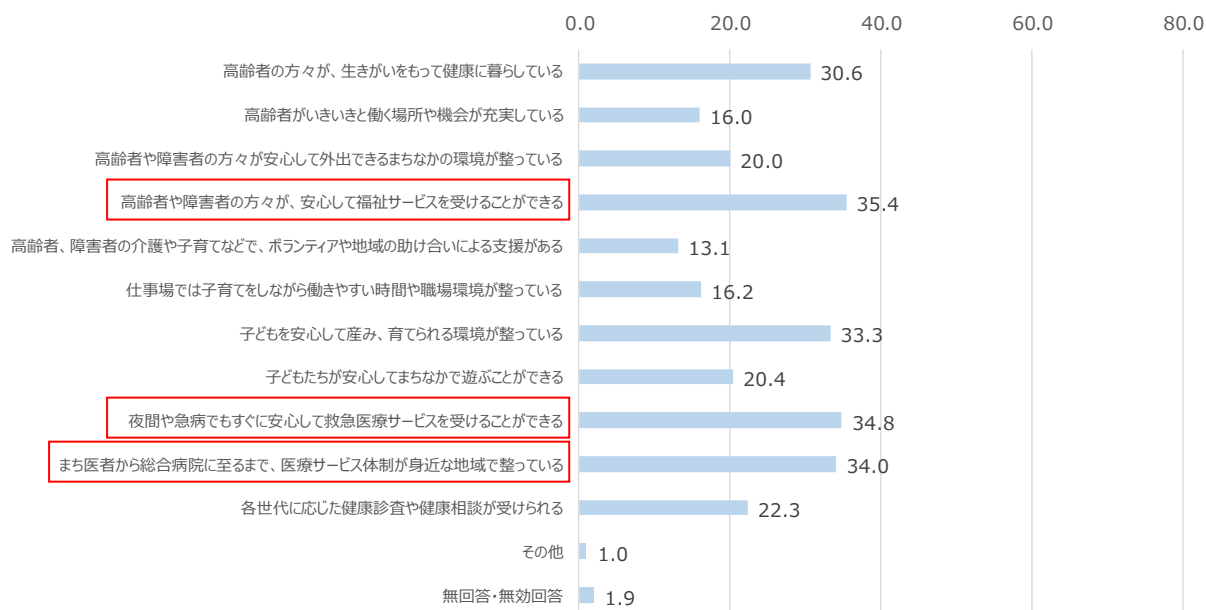
4-3 施策の目標

(問4) 将来のまちの姿と具体的なまちの状態

【①誰もが健康で安心して暮らしていけるまちをめざす場合に重要と思われるまちの状態】

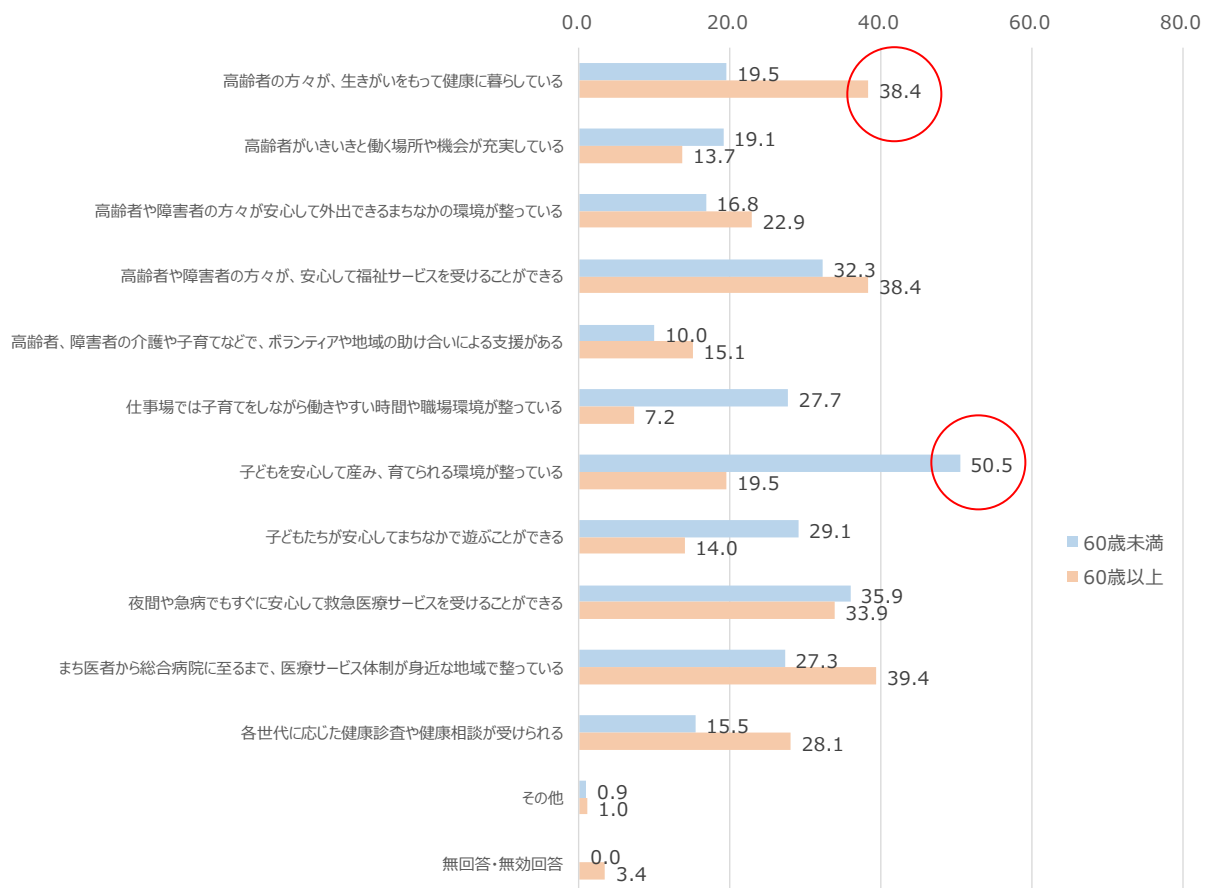
(全体)

- 第1位は、「高齢者や障害者の方々が、安心して福祉サービスを受けることができる」(35.4%)で、次いで「夜間や急病でもすぐに安心して救急医療サービスを受けることができる」(34.8%)、「まち医者から総合病院に至るまで、医療サービス体制が身近な地域で整っている」(34.0%)の順となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・ 60歳未満では、「子どもを安心して産み、育てられる環境が整っている」と回答した者の割合が突出して高く、子育て環境の充実を求める声が多いことがうかがえる。
- ・ 60歳以上では、「高齢者の方々が、生きがいをもって健康に暮らしている」と回答した者の割合が比較的高く、それぞれのライフステージに応じた暮らしやすさを求める声が多いことがうかがえる。



【②自分と郷土に誇りを持った人材が育っているまちをめざす場合に重要と思われるまちの状態】

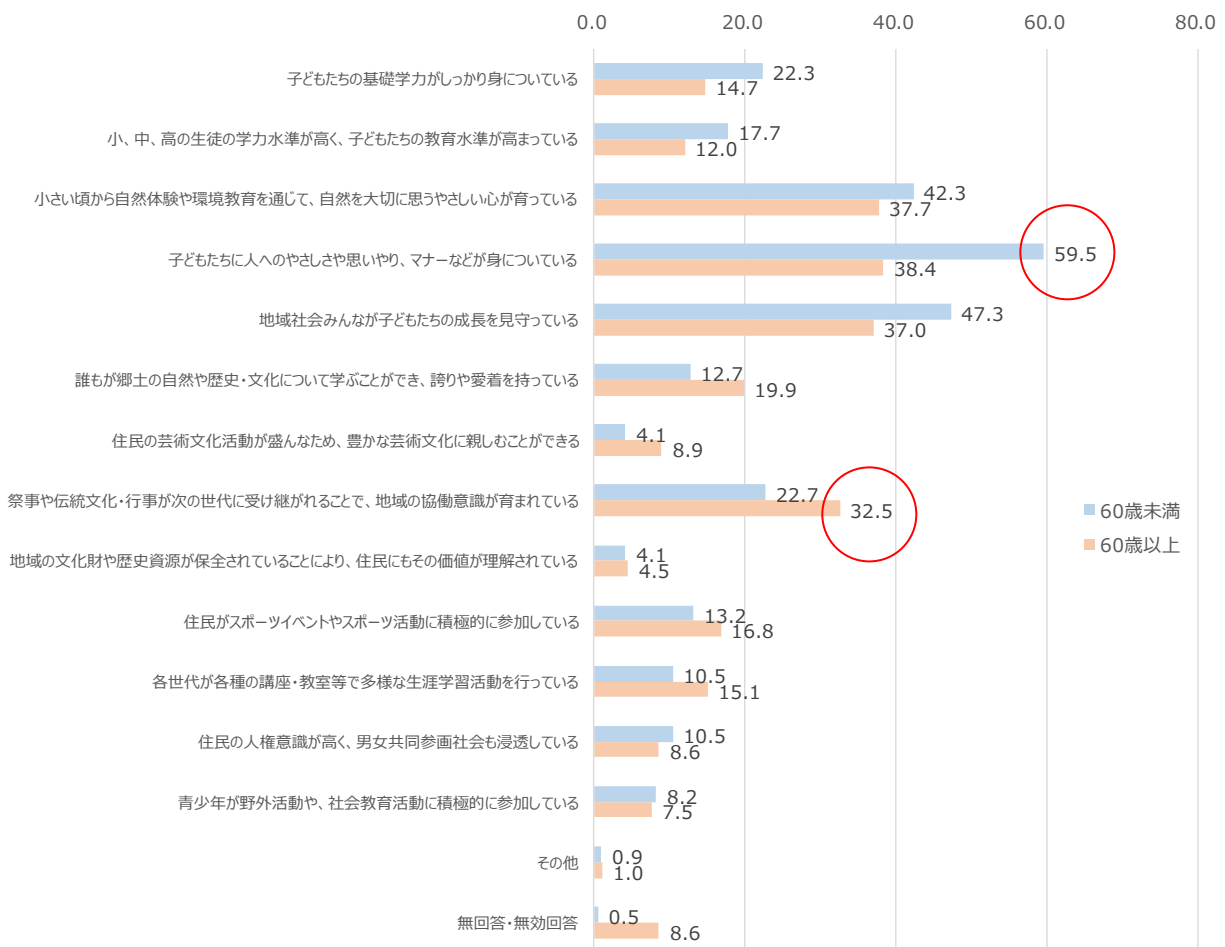
(全体)

- ・ 第1位は「子どもたちに人へのやさしさや思いやり、マナーなどが身についている」(47.1%)で、次いで「地域社会みんなが子どもたちの成長を見守っている」(41.3%)、「小さい頃から自然体験や環境教育を通じて、自然を大切に思うやさしい心が育っている」(39.8%)の順となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

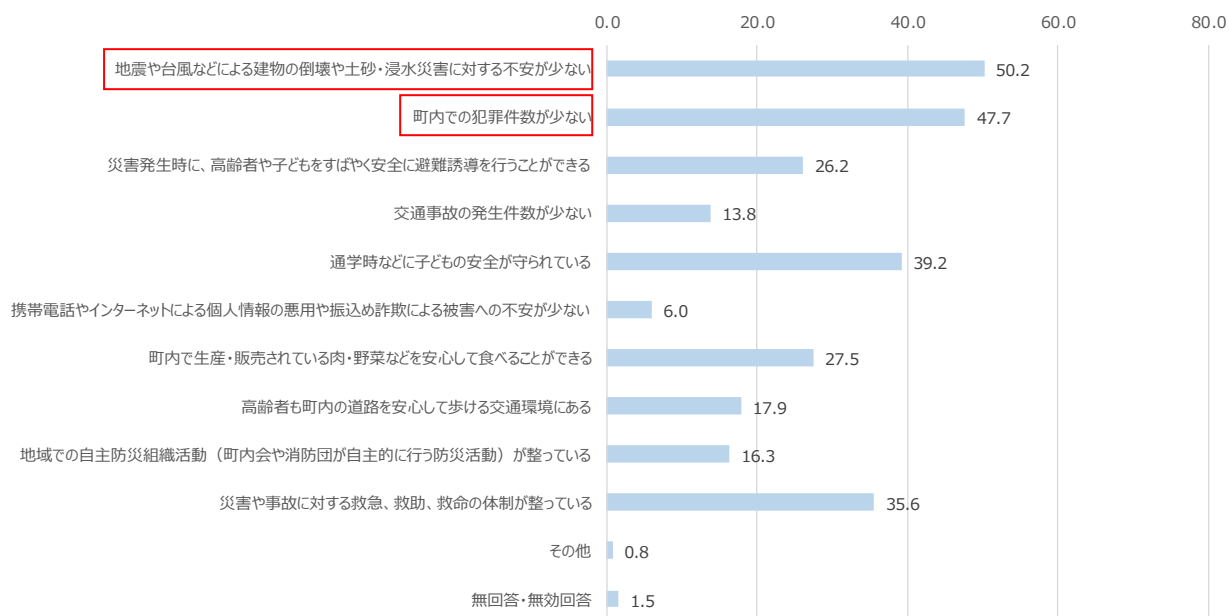
- ・ 60歳未満では、「子どもたちに人へのやさしさや思いやり、マナーなどが身についている」と回答した割合が突出して高く、子どもの教育への関心が高いことがうかがえる。
- ・ 60歳以上では、「祭事や伝統文化・行事が次の世代に受け継がれることで、地域の協働意識が育まれている」と回答した割合が比較的高く、地域の交流を促進することなどを通じて、地域のつながりを大事にする意識が高いことがうかがえる。



【③住民の安全が守られているまちをめざす場合に重要と思われるまちの状態】

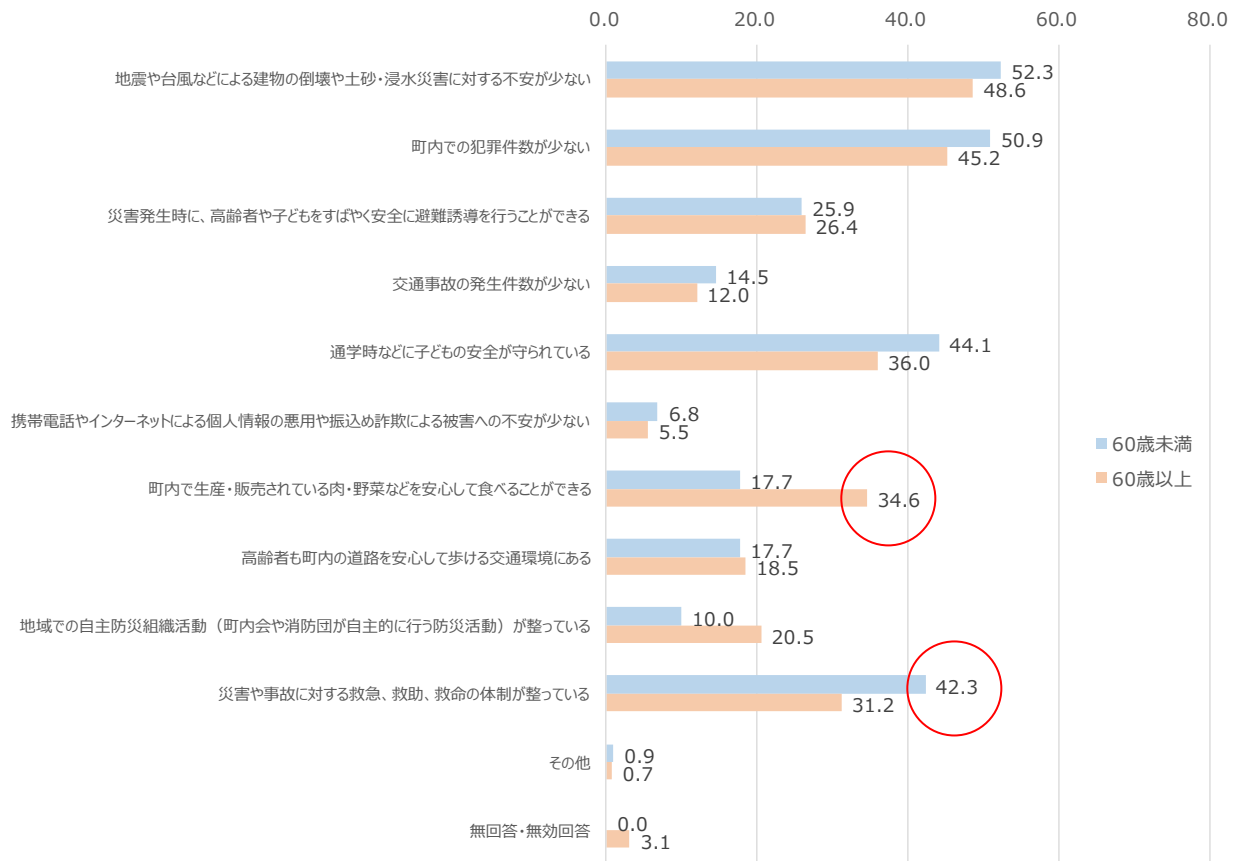
(全体)

- ・ 第1位は「町内での犯罪件数が少ない地震や台風などによる建物の倒壊や土砂・浸水災害に対する不安が少ない」（50.2%）で、次いで「町内での犯罪件数が少ない」（47.7%）の順となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

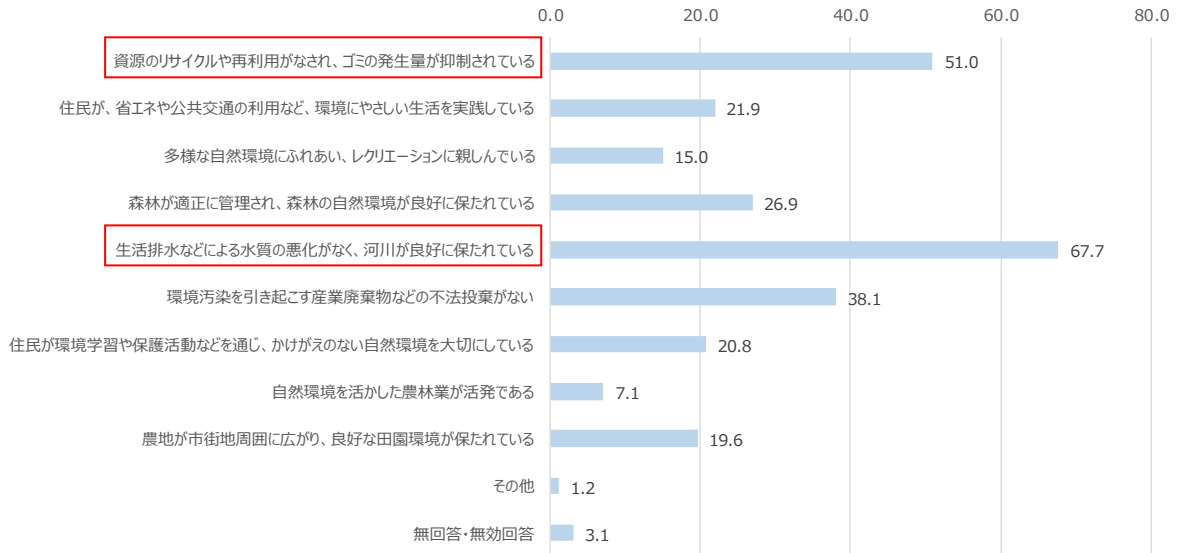
- ・ 60歳未満では、「災害や事故に対する救急・救助・救命の体制が整っている」と回答した割合が比較的高く、自然災害等への対応に関する意識が高いことがうかがえる。
- ・ 60歳以上では、「町内で生産・販売されている肉・野菜などを安心して食べることができる」と回答した割合が比較的高く、地域の産品を活かした地産地消に関する意識が高いことがうかがえる。



【④豊かな自然環境を大切にし、自然と共生しているまちをめざす場合に重要と思われるまちの状態】

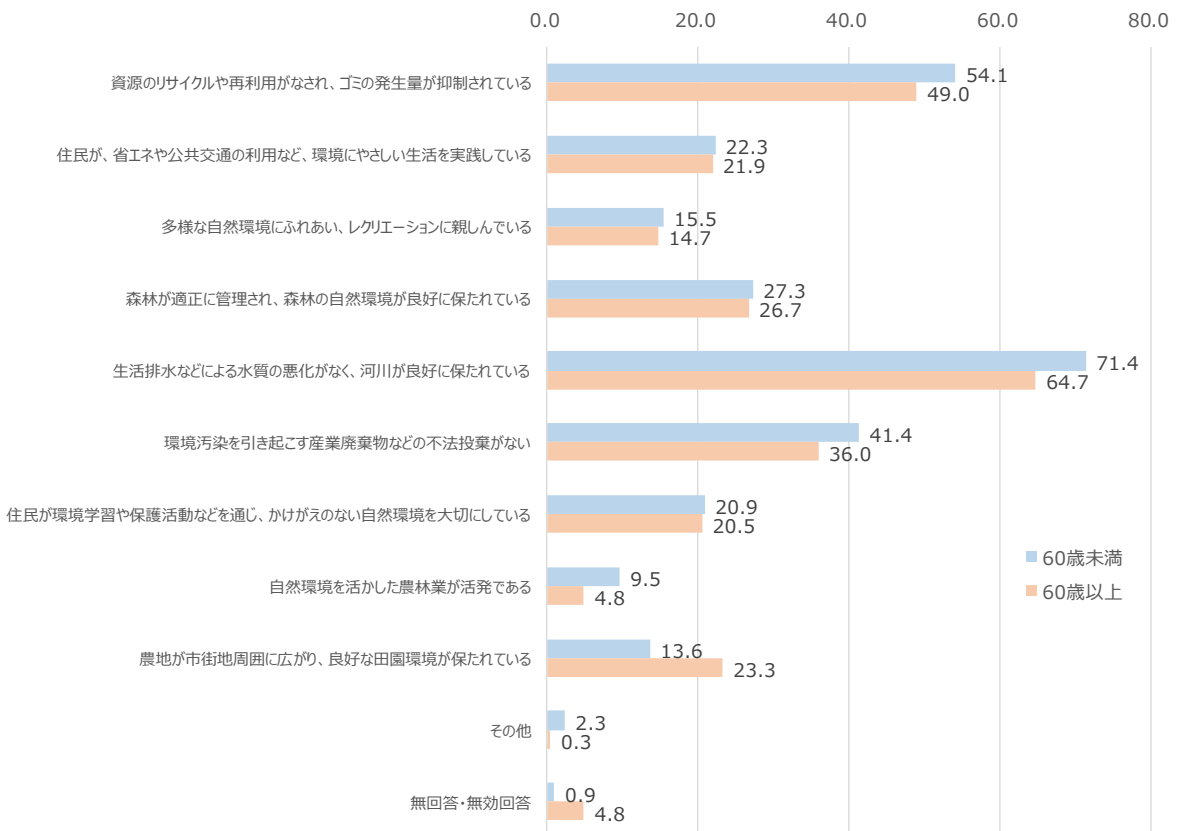
(全体)

- ・ 第1位は「生活排水などによる水質の悪化がなく、河川が良好に保たれている」(67.7%)で、次いで「資源のリサイクルや再利用がなされ、ゴミの発生量が抑制されている」(51.0%)の順となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・ 60歳未満、60歳以上ともに、全体とほぼ同様の傾向を示している。



【⑤日常生活が便利で快適に過ごしていけるまちをめざす場合に重要と思われるまちの状態】

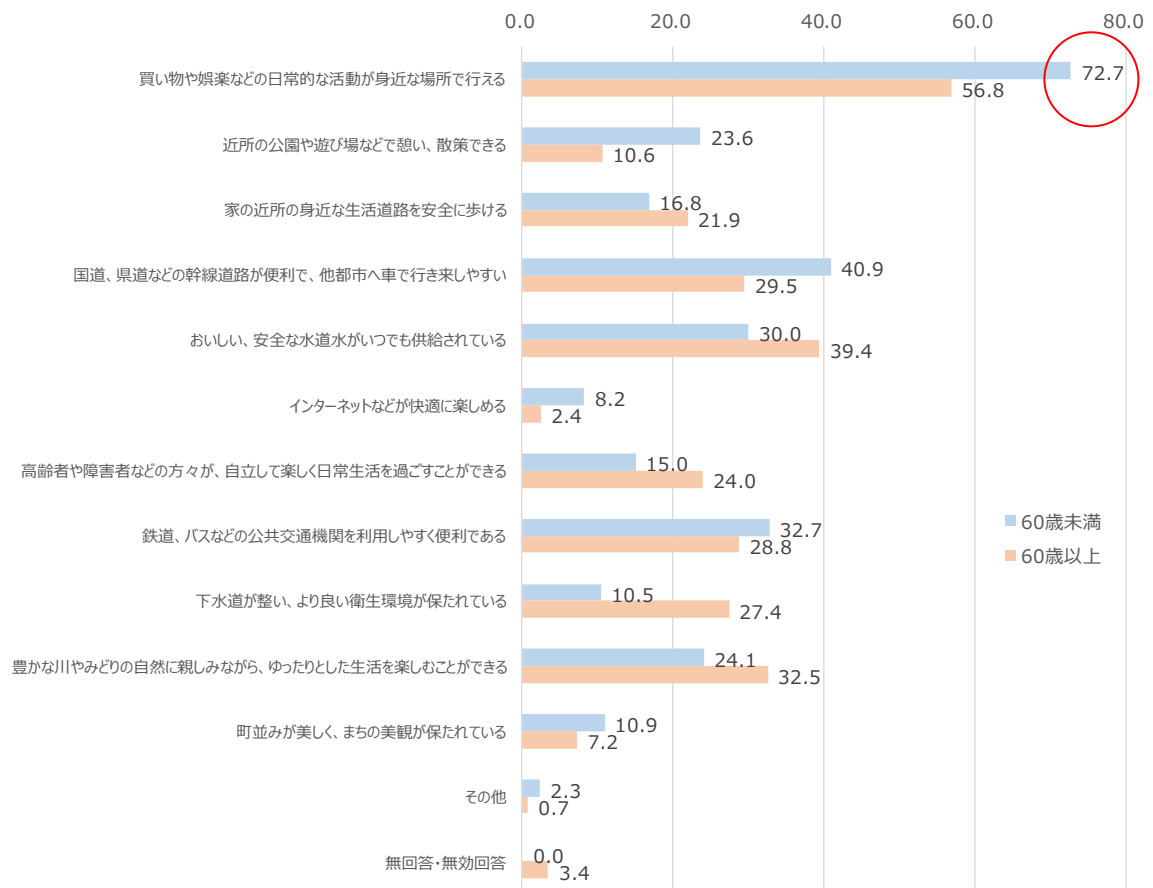
(全体)

- ・ 第1位は「買い物や娯楽などの日常的な活動が身近な場所で行える」(63.7%)となっており、第2位以下と大きく差が開いた。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

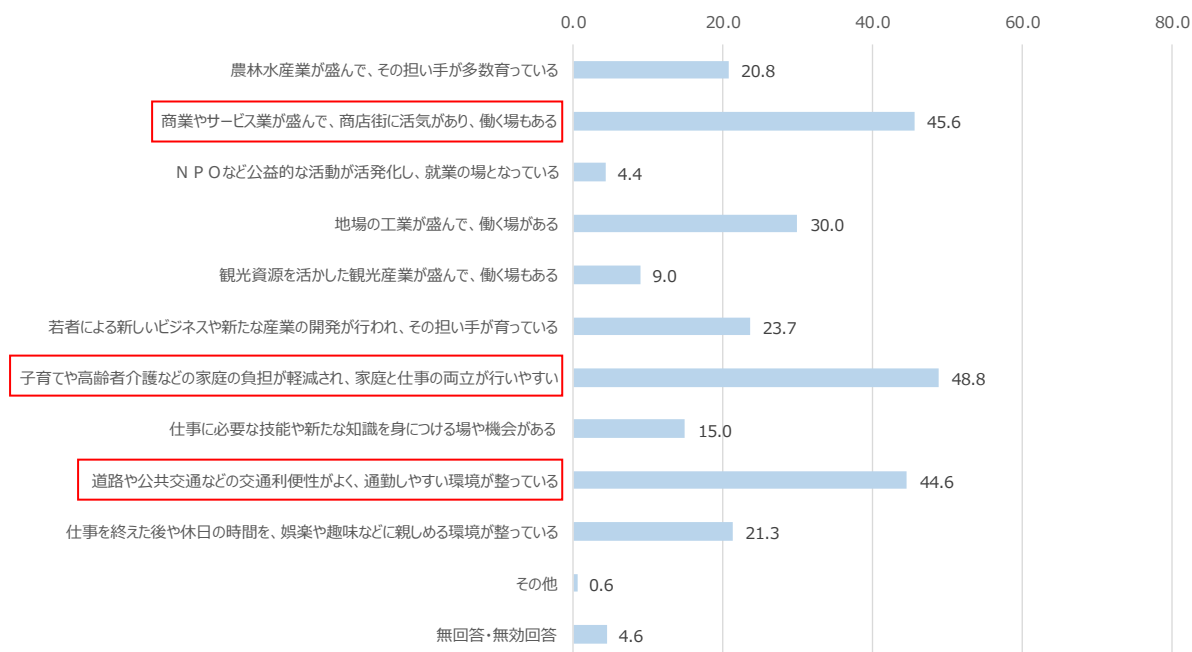
- ・ 60歳未満では、「買い物や娯楽などの日常的な活動が身近な場所で行える」と回答した割合が突出して高く、住環境の充実を求める声が多いことがえる。
- ・ 60歳以上では、全体とほぼ同様の傾向を示している。



【⑥多様な産業が盛んで働きやすいまちをめざす場合に重要と思われるまちの状態】

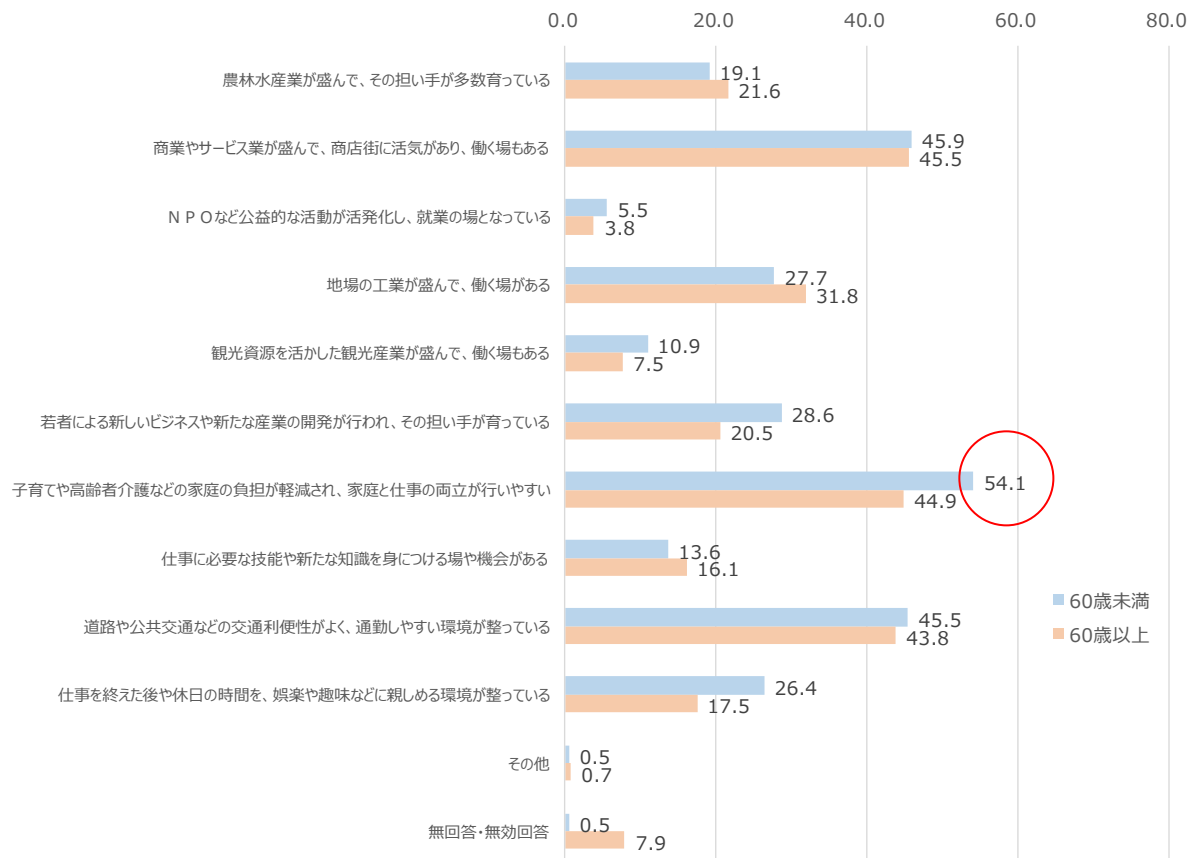
(全体)

- ・ 第1位は「子育てや高齢者介護などの家庭の負担が軽減され、家庭と仕事の両立が行いやすい」(48.8%)で、次いで「商業やサービス業が盛んで、商店街に活気があり、働く場もある」(45.6%)、「道路や公共交通などの交通利便性がよく、通勤しやすい環境が整っている」(44.6%)の順となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

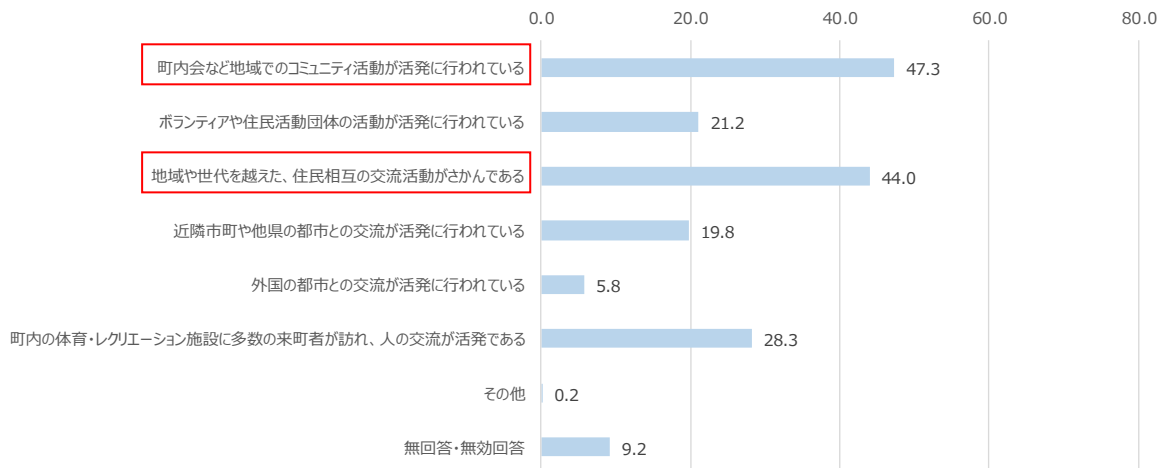
- ・ 60歳未満では、「子育てや高齢者介護などの家庭の負担が軽減され、家庭と仕事の両立が行いやすい」と回答した割合が比較的高く、子育てと仕事を両立したい者の割合が高いことがうかがえる。
- ・ 60歳以上では、全体とほぼ同様の傾向を示している。



【⑦住民の交流や活動が活発に行われていけるまちをめざす場合】

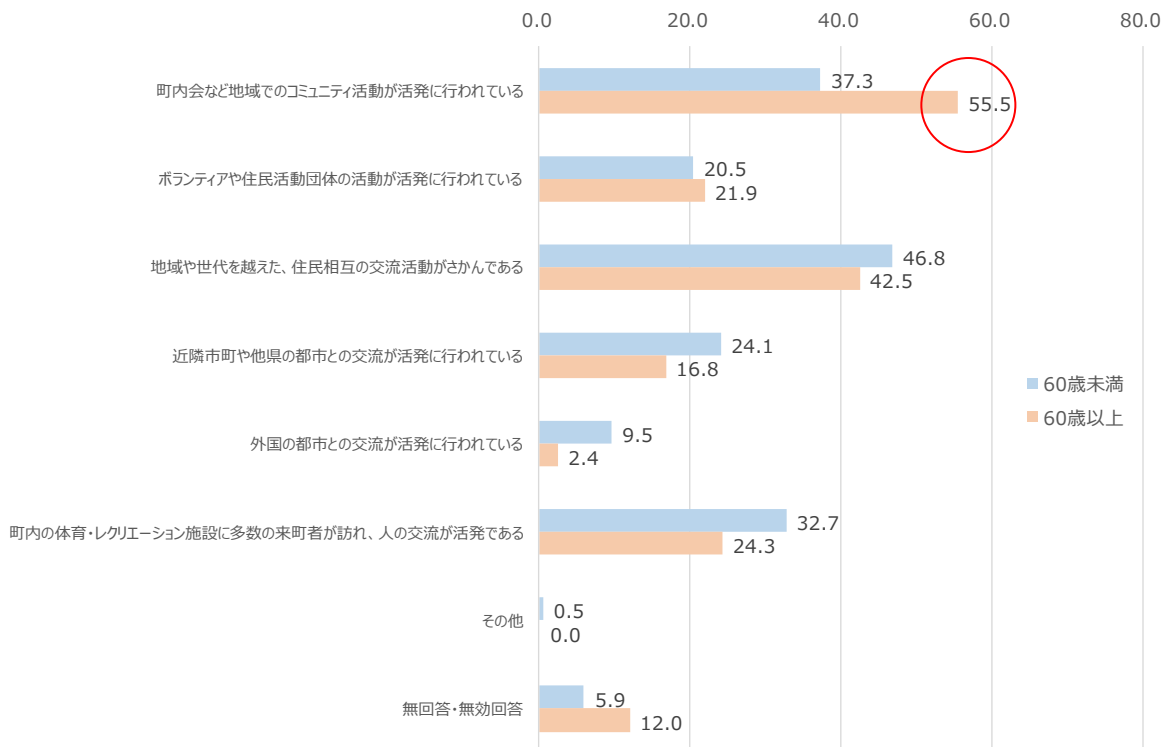
(全体)

- ・ 第1位は「町内会など地域でのコミュニティ活動が活発に行われている」(47.3%)で、次いで「地域や世代を越えた、住民相互の交流活動がさかんである」(44.0%)の順となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

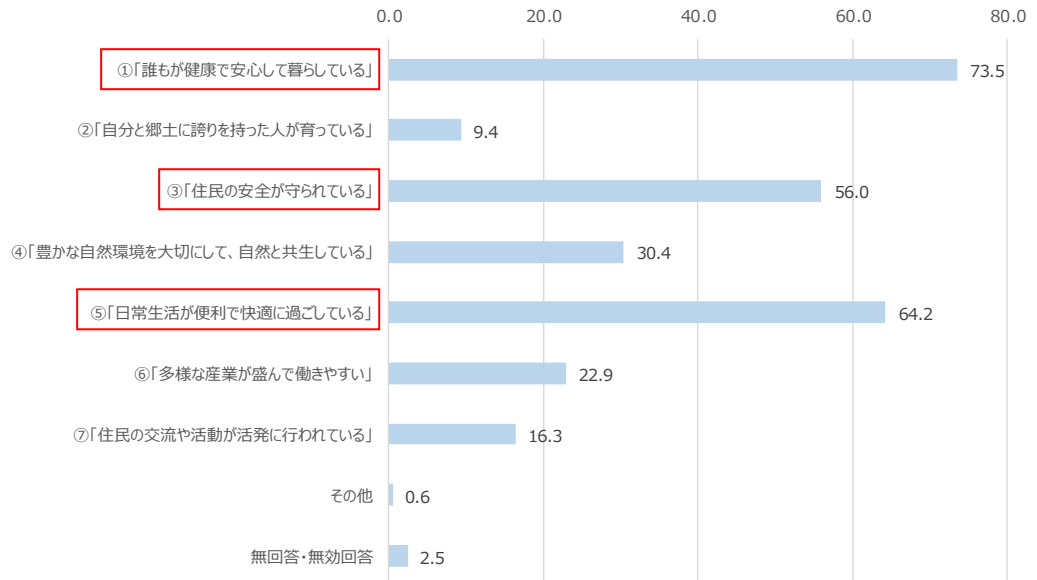
- ・ 60歳以上では、「町内会など地域でのコミュニティ活動が活発に行われている」と回答した割合が、60歳未満に比べて非常に高くなっており、地域のつながりに関する意識が高いことがうかがえる。



(問5) 最も望む将来の佐々町の姿

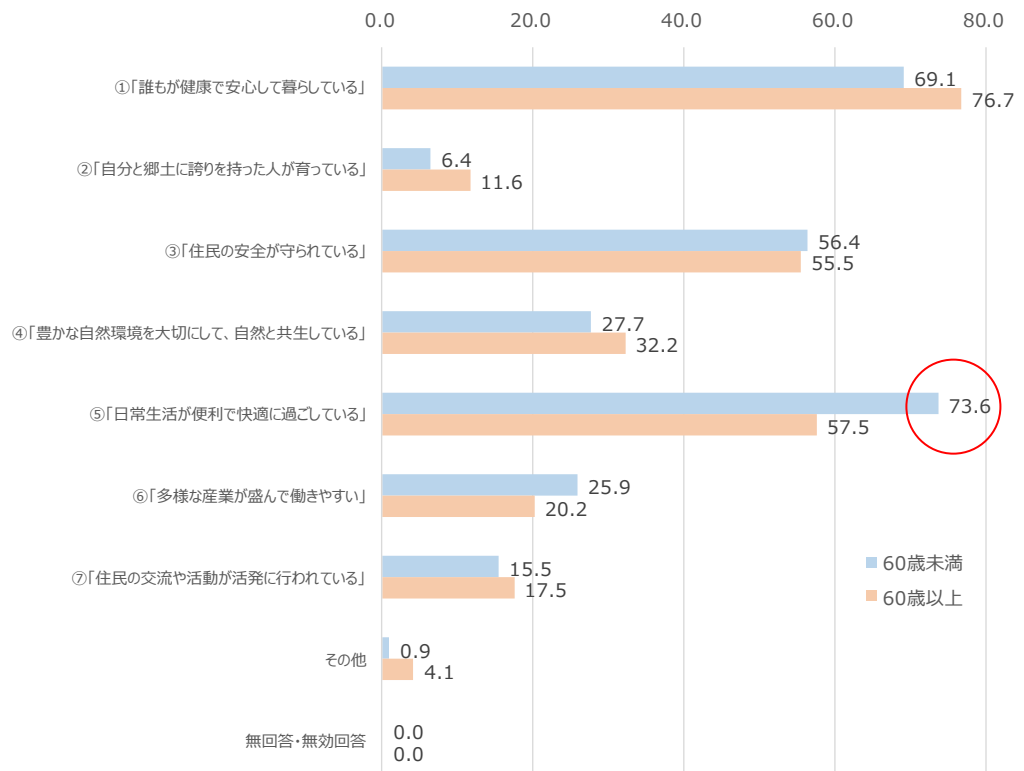
(全体)

- ・ 上位3つは「①誰もが健康で安心して暮らしている」(73.5%)、「⑤日常生活が便利で快適に過ごしている」(64.2%)「住民の安全が守られている」(56.0%)となっている。

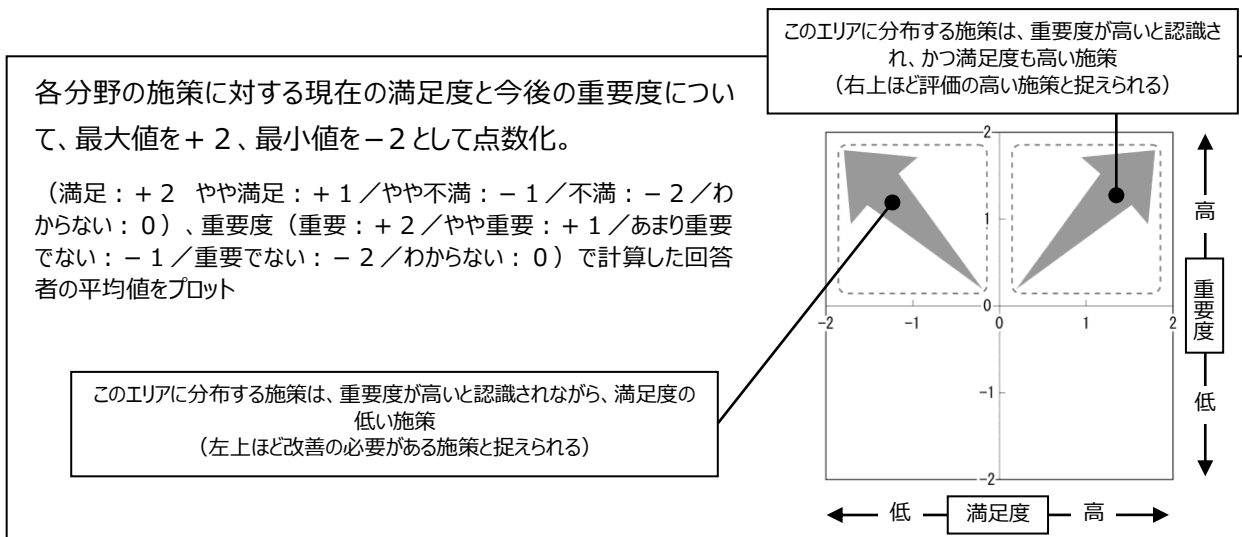


(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・ 60歳未満では、「日常生活が便利で快適に過ごしている」と回答した割合が第1位となっており、子育て世代をはじめとして、過ごしやすい住環境を望む者が多いことがうかがえる。

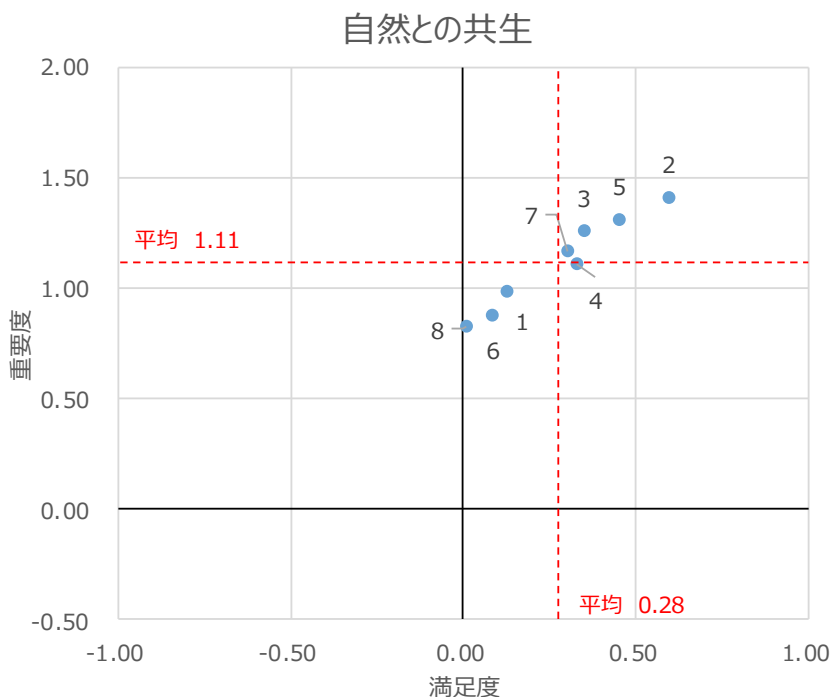


4-4 現状の満足度と今後の重要度



(問6-1) 自然との共生

- 相対的にみて改善の余地がある施策は、町民が「7：環境教育・学習に関する取り組み」となっている。

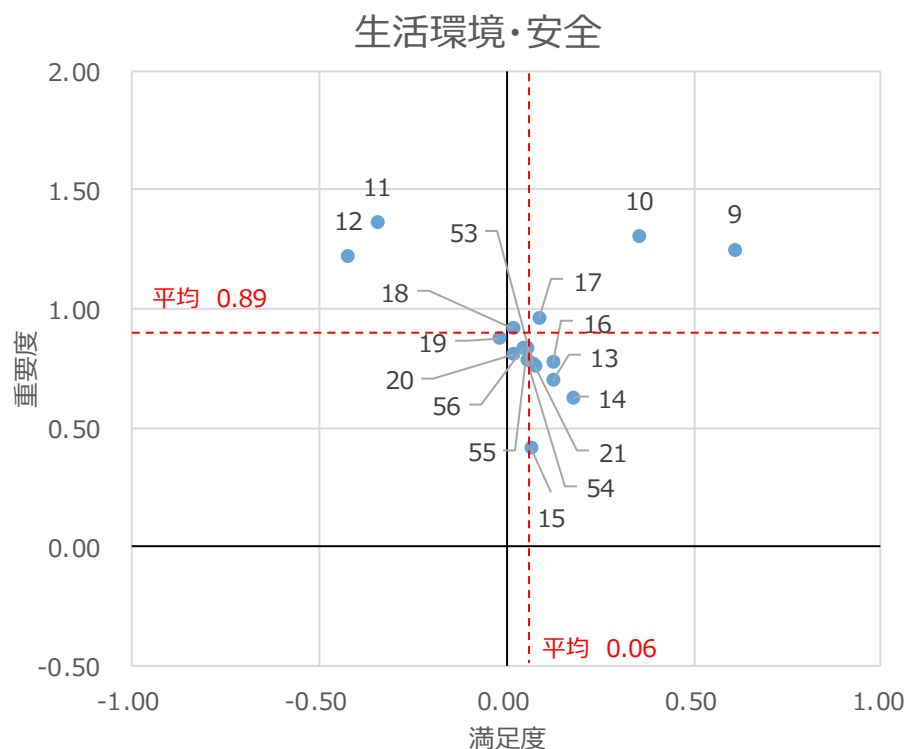


1: 省エネルギーや新エネルギー利用の推進	5: 河川の自然環境・自然景観の保全
2: ゴミの減量化やリサイクルに関する取り組み	6: 農地の保全に関する取り組み
3: 廃棄物の最終処理に関する取り組み	7: 環境教育・学習に関する取り組み
4: 山林などの自然環境・自然景観の保全	8: 自然に親しめるレクリエーション施設などの整備

■ : 相対的にみて改善の余地がある施策

(問6-2) 生活環境・安全

- ・ 相対的にみて改善の余地がある施策は、「11：高齢者などが移動しやすい環境の整備（バリアフリー）」、「12：路線バスや町内循環バスなどの公共交通の整備」および「18：生活排水・産業排水などの処理に関する取り組み」となっている。

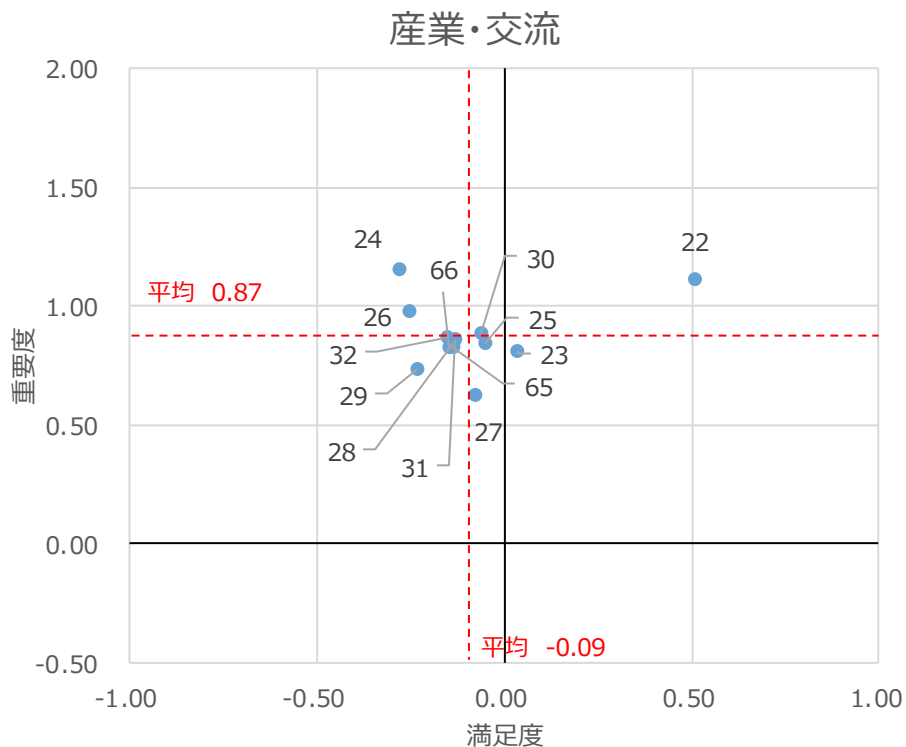


9: 高速道路や国道、県道などの幹線道路の整備	18: 生活排水・産業排水などの処理に関する取り組み
10: 身近な生活道路の整備	19: 公園の充実、緑化・維持管理に関する取り組み
11: 高齢者などが移動しやすい環境の整備(バリアフリー)	20: 駅前等の中心市街地の整備
12: 路線バスや町内循環バスなどの公共交通の整備	21: ゴミやし尿の収集処理に関する取り組み
13: 無秩序な都市の拡大防止と良好な市街地の整備	53: 消防や防災体制の整備、自然災害への備え
14: 景観に配慮したまちづくりに関する取り組み	54: 救急・救助・救命体制
15: 通りの広告看板・環境美化に関する取り組み	55: 防犯対策
16: 公営住宅や住宅地の整備に関する取り組み	56: 歩道・ガードレール設置等の交通安全対策
17: 水道水の良質・安定供給に関する取り組み	

■ : 相対的にみて改善の必要がある施策

(問6-3) 産業・交流

- ・ 相対的にみて改善の余地がある施策は、「24：農業の担い手の育成」および「26：既存商店街の整備、商業振興」となっている。

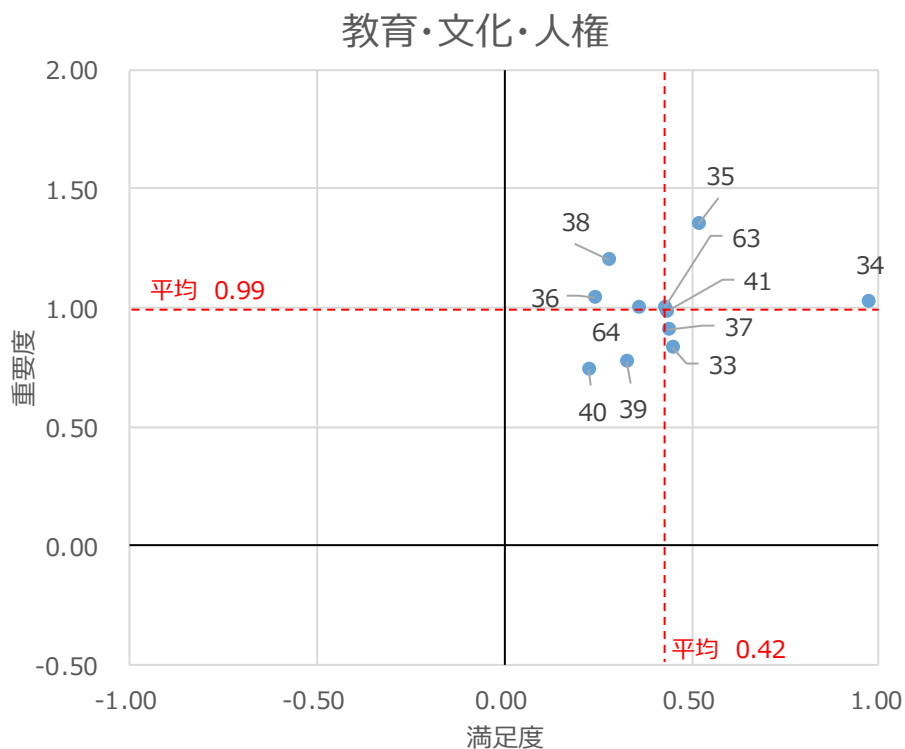


22: 安全・安心な農林水産物の供給	29: 新規起業、ベンチャー企業の育成
23: 農産物の特産品づくり・ブランド化	30: 観光資源を活かした観光拠点整備
24: 農業の担い手の育成	31: 観光産業の育成・支援
25: 適切な森林育成管理等、林業の振興	32: 雇用機会の創出
26: 既存商店街の整備、商業振興	65: 他の自治体との交流
27: 大規模量販店等の立地の規制誘導	66: 国際交流や外国人が暮らしやすいまちづくり
28: 工業の育成・支援	

■ : 相対的にみて改善の必要がある施策

(問6-4) 教育・文化・人権

- ・ 相対的にみて改善の余地がある施策は、「36：専門学校等の高等教育の充実、整備」、「38：青少年の健全育成、指導」、「64：男女共同参画社会の啓発や支援」となっている。

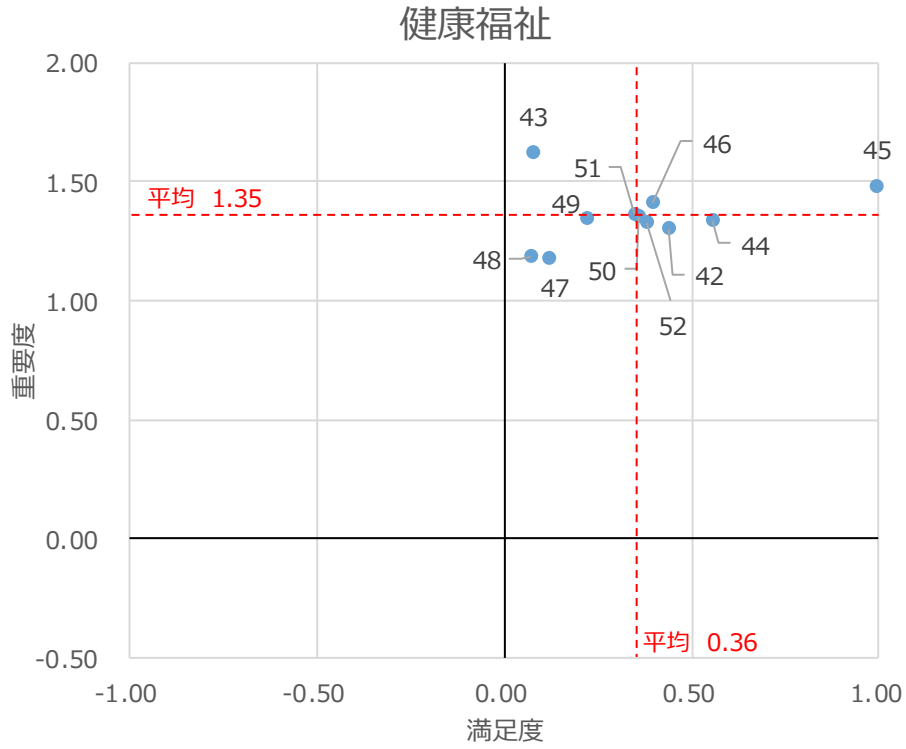


33: 生涯学習・公民館事業の充実	39: 文化・芸術活動の振興
34: 図書館の充実	40: 史跡や文化財の保護・活用
35: 小中学校教育の充実、整備	41: スポーツ活動の充実
36: 専門学校等の高等教育の充実、整備	63: 人権教育、啓発活動など人権尊重
37: 地域の祭り・伝統行事の継承	64: 男女共同参画社会の啓発や支援
38: 青少年の健全育成、指導	

■ : 相対的にみて改善の必要がある施策

(問 6 - 5) 健康福祉

- ・ 相対的にみて改善の余地がある施策は、「43：医療体制、施設の充実」となっている。

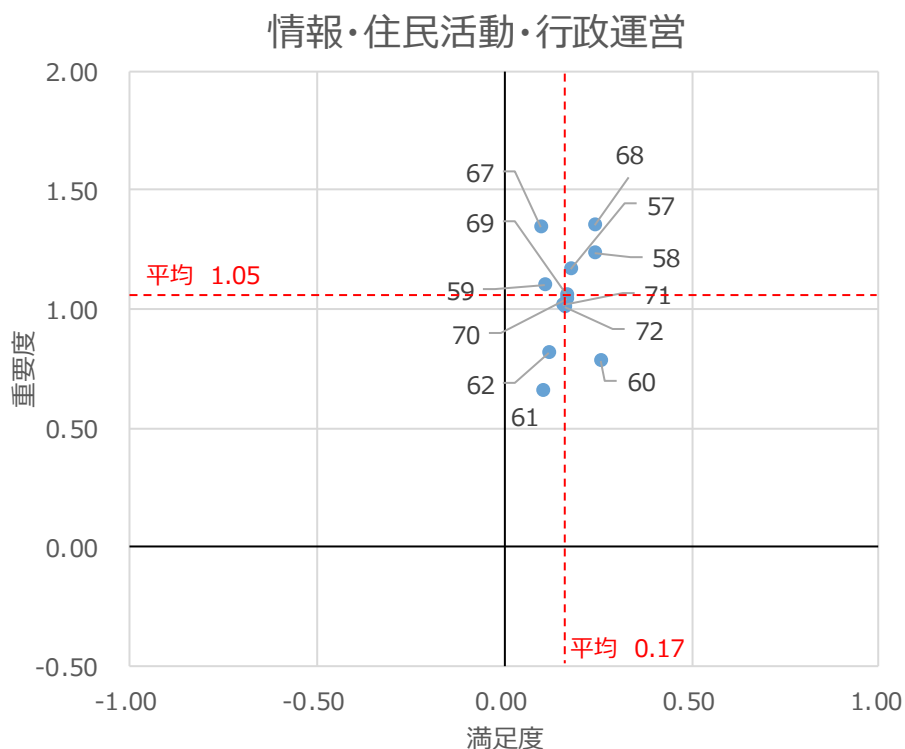


42: 身近な地域における地域福祉	48: 障害者の就労支援や福祉サービス
43: 医療体制、施設の充実	49: 保育サービスや子育て相談など子育て支援
44: 健康づくりの推進	50: 児童福祉・児童虐待防止
45: 健康診断等の保健	51: 健康保険や年金制度の健全化
46: 高齢者の介護サービス	52: 消費者保護、被害防止
47: 高齢者の就労、生きがい対策	

■ : 相対的にみて改善の必要がある施策

(問 6 - 6) 情報・市民活動・行政運営

- ・ 相対的にみて改善の余地がある施策は、「59：情報・通信基盤の整備」、「67：行財政の健全化」となっている。



57: 行政の情報公開	67: 行財政の健全化
58: 行政の個人情報保護	68: 住民サービスの窓口対応の向上
59: 情報・通信基盤の整備	69: 行政(町長)と住民との対話
60: 地域住民によるコミュニティ活動を支援	70: 行政事務の効率化・行政改革
61: NPO・ボランティア団体等の育成・支援	71: 地域に密着した行政サービス
62: まちづくりや行政への住民参画	72: 行政職員のモラル・資質の向上

■ : 相対的にみて改善の必要がある施策

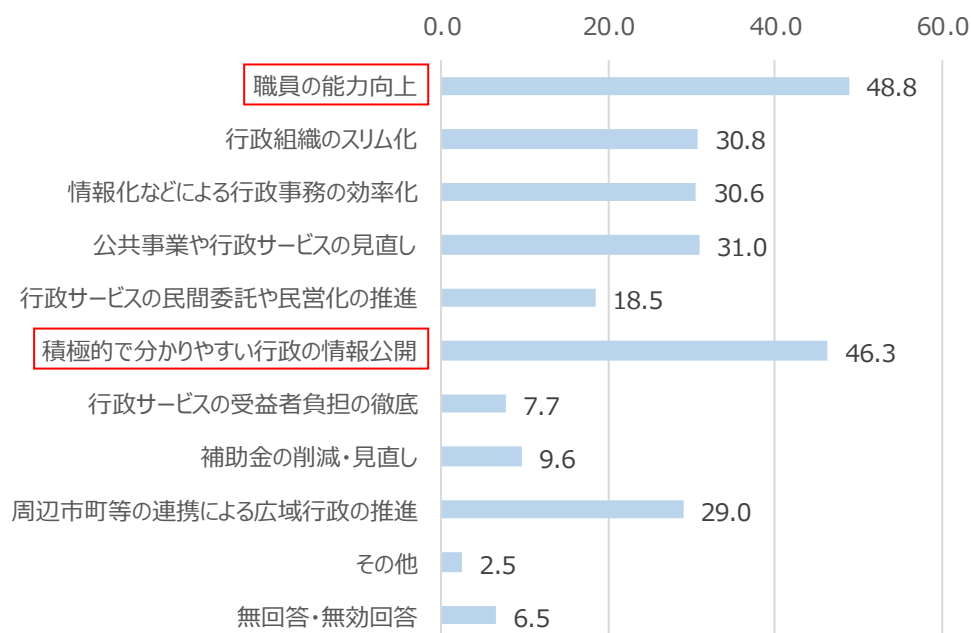
	満足度	重要度	満足度構成比				
			①満足 構成比	②やや満足 構成比	①+② 構成比		
自然との共生	1 省エネルギーや新エネルギー利用の推進	0.12	0.98	5.7%	21.7%	27.4%	
	2 ゴミの減量化やリサイクルに関する取り組み	0.59	1.41	18.4%	45.6%	63.9%	
	3 廃棄物の最終処理に関する取り組み	0.35	1.25	13.1%	29.6%	42.7%	
	4 山林などの自然環境・自然景観の保全	0.33	1.11	11.3%	35.9%	47.3%	
	5 河川の自然環境・自然景観の保全	0.45	1.31	15.5%	43.2%	58.7%	
	6 農地の保全に関する取り組み	0.08	0.87	6.6%	24.1%	30.7%	
	7 環境教育・学習に関する取り組み	0.30	1.17	11.1%	29.9%	41.0%	
	8 自然に親しめるレクリエーション施設などの整備	0.01	0.82	8.9%	30.2%	39.0%	
	小計	0.28	1.11	—	—	—	
生活環境の整備	9 高速道路や国道、県道などの幹線道路の整備	0.61	1.24	22.9%	45.8%	68.6%	
	10 身近な生活道路の整備	0.35	1.30	18.1%	43.2%	61.3%	
	11 高齢者などが移動しやすい環境の整備(バリアフリー)	-0.35	1.36	4.0%	21.1%	25.1%	
	12 路線バスや町内循環バスなどの公共交通の整備	-0.43	1.22	6.0%	21.4%	27.4%	
	13 無秩序な都市の拡大防止と良好な市街地の整備	0.12	0.70	6.2%	28.4%	34.6%	
	14 景観に配慮したまちづくりに関する取り組み	0.18	0.62	7.0%	35.2%	42.3%	
	15 通りの広告看板・環境美化に関する取り組み	0.07	0.41	6.6%	31.8%	38.4%	
	16 公営住宅や住宅地地の整備に関する取り組み	0.13	0.78	6.6%	31.8%	38.4%	
	17 水道水の良質・安定供給に関する取り組み	0.08	0.95	30.1%	46.4%	76.5%	
	18 生活排水・産業排水などの処理に関する取り組み	0.02	0.92	20.3%	41.4%	61.7%	
	19 公園の充実、緑化・維持管理に関する取り組み	-0.02	0.87	11.1%	43.1%	54.2%	
	20 駅前等の中心市街地の整備	0.02	0.81	13.9%	45.4%	59.2%	
	21 ゴミやし尿の収集処理に関する取り組み	0.07	0.76	20.3%	41.5%	61.8%	
	53 消防や防災体制の整備、自然災害への備え	0.07	0.77	13.4%	41.8%	55.2%	
安全の確保	54 救急・救助・救命体制	0.05	0.78	14.3%	38.5%	52.8%	
	55 防犯対策	0.05	0.83	8.3%	36.5%	44.9%	
	56 歩道・ガードレール設置等の交通安全対策	0.04	0.84	9.2%	34.1%	43.3%	
	小計	0.06	0.89	—	—	—	
産業の振興	22 安全・安心な農林水産物の供給	0.51	1.11	13.7%	39.2%	52.9%	
	23 農産物の特産品づくり・ブランド化	0.03	0.81	4.3%	28.5%	32.8%	
	24 農業の担い手の育成	-0.28	1.15	3.3%	10.0%	13.2%	
	25 適切な森林育成管理等、林業の振興	-0.05	0.84	3.3%	16.6%	19.9%	
	26 既存商店街の整備、商業振興	-0.26	0.98	4.3%	22.1%	26.5%	
	27 大規模量販店等の立地の規制誘導	-0.08	0.62	5.5%	23.7%	29.2%	
	28 工業の育成・支援	-0.14	0.84	4.4%	17.7%	22.1%	
	29 新規起業、ベンチャー企業の育成	-0.23	0.73	3.3%	12.0%	15.3%	
	30 観光資源を活かした観光拠点整備	-0.06	0.89	3.7%	15.2%	18.9%	
	31 観光産業の育成・支援	-0.13	0.86	3.1%	15.5%	18.6%	
	32 雇用機会の創出	-0.15	0.86	3.1%	12.3%	15.3%	
	交流	65 他の自治体との交流	-0.14	0.83	4.4%	19.5%	23.9%
66 国際交流や外国人が暮らしやすいまちづくり		-0.15	0.83	3.9%	20.4%	24.3%	
小計	-0.09	0.87	—	—	—		
教育・文化の振興	33 生涯学習・公民館事業の充実	0.45	0.83	11.6%	43.3%	54.9%	
	34 図書館の充実	0.97	1.03	32.0%	44.8%	76.8%	
	35 小中学校教育の充実、整備	0.52	1.35	14.7%	39.7%	54.4%	
	36 専門学校等の高等教育の充実、整備	0.24	1.05	10.4%	28.0%	38.5%	
	37 地域の祭り・伝統行事の継承	0.44	0.91	12.1%	44.3%	56.4%	
	38 青少年の健全育成、指導	0.28	1.20	9.0%	33.8%	42.8%	
	39 文化・芸術活動の振興	0.33	0.77	8.7%	36.4%	45.1%	
	40 史跡や文化財の保護・活用	0.23	0.74	8.1%	27.6%	35.7%	
	41 スポーツ活動の充実	0.43	0.98	9.8%	42.6%	52.4%	
	人権	63 人権教育、啓発活動など人権尊重	0.43	1.00	5.4%	26.6%	32.0%
		64 男女共同参画社会の啓発や支援	0.36	1.00	4.6%	24.8%	29.4%
小計	0.42	0.99	—	—	—		
健康福祉の充実	42 身近な地域における地域福祉	0.44	1.30	11.6%	41.6%	53.2%	
	43 医療体制、施設の充実	0.08	1.62	10.1%	38.8%	48.9%	
	44 健康づくりの推進	0.55	1.33	16.3%	43.2%	59.4%	
	45 健康診断等の保健	0.99	1.48	33.6%	44.2%	77.8%	
	46 高齢者の介護サービス	0.39	1.41	12.8%	34.5%	47.3%	
	47 高齢者の就労、生きがい対策	0.12	1.17	6.3%	27.5%	33.8%	
	48 障害者の就労支援や福祉サービス	0.07	1.18	5.2%	23.3%	28.5%	
	49 保育サービスや子育て相談など子育て支援	0.22	1.34	7.9%	31.9%	39.8%	
	50 児童福祉・児童虐待防止	0.36	1.36	5.7%	26.3%	31.9%	
	51 健康保険や年金制度の健全化	0.35	1.36	7.2%	30.9%	38.2%	
	52 消費者保護、被害防止	0.38	1.33	6.1%	25.5%	31.7%	
	小計	0.36	1.35	—	—	—	
	情報	57 行政の情報公開	0.18	1.16	7.9%	30.4%	38.3%
58 行政の個人情報保護		0.24	1.24	8.8%	25.2%	34.0%	
市民活動	59 情報・通信基盤の整備	0.11	1.10	6.9%	22.3%	29.2%	
	60 地域住民によるコミュニティ活動を支援	0.26	0.78	5.8%	30.8%	36.5%	
	61 NPO・ボランティア団体等の育成・支援	0.10	0.66	4.2%	20.0%	24.2%	
行政運営	62 まちづくりや行政への住民参画	0.12	0.82	4.0%	24.4%	28.5%	
	67 行財政の健全化	0.10	1.35	5.4%	25.0%	30.4%	
	68 住民サービスの窓口対応の向上	0.24	1.36	9.2%	36.0%	45.2%	
	69 行政(町長)と住民との対話	0.17	1.06	4.6%	19.2%	23.8%	
	70 行政事務の効率化・行政改革	0.17	1.04	4.2%	22.3%	26.5%	
	71 地域に密着した行政サービス	0.16	1.02	4.4%	24.2%	28.7%	
72 行政職員のモラル・資質の向上	0.16	1.01	4.6%	21.3%	26.0%		
小計	0.17	1.05	—	—	—		
全体	0.20	1.05	—	—	—		

4-5 行政改革について

(問7) 行政改革を進めて行くうえで必要なこと

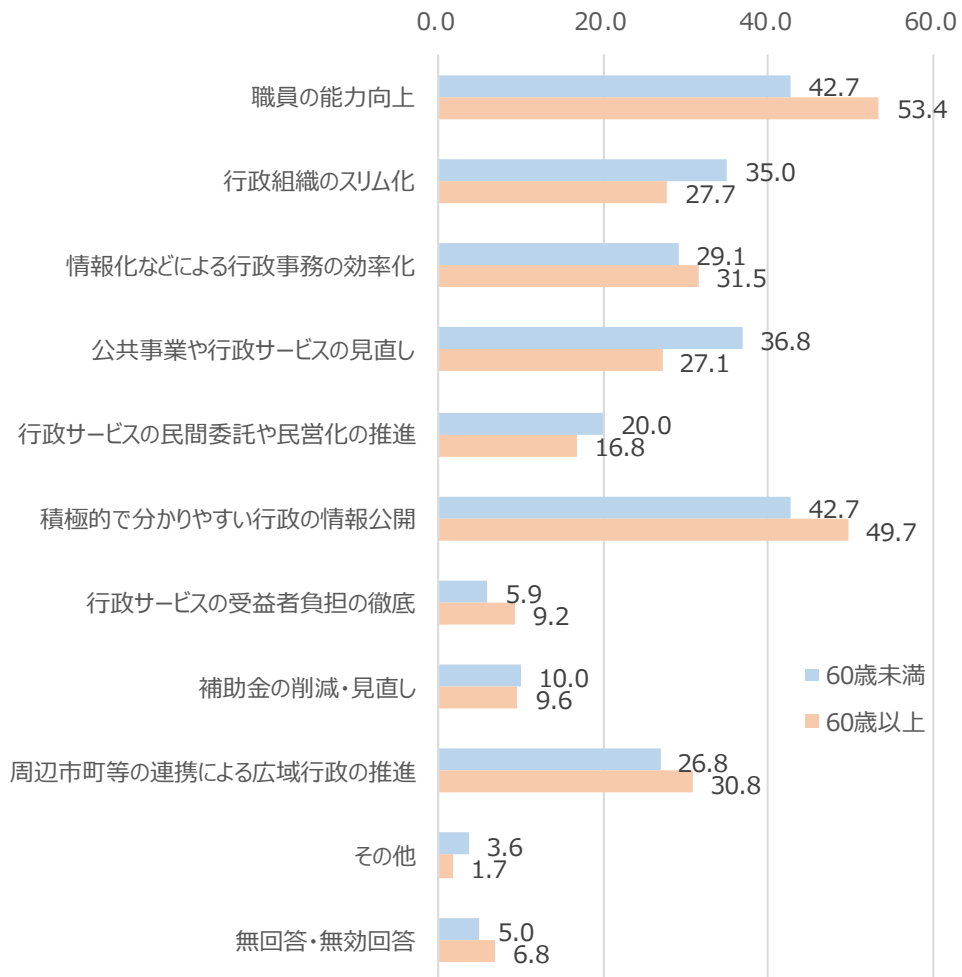
(全体)

- ・ 第1位は「職員の能力向上」(48.8%)であり、次いで「積極的で分かりやすい行政の情報公開」(46.3%)となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

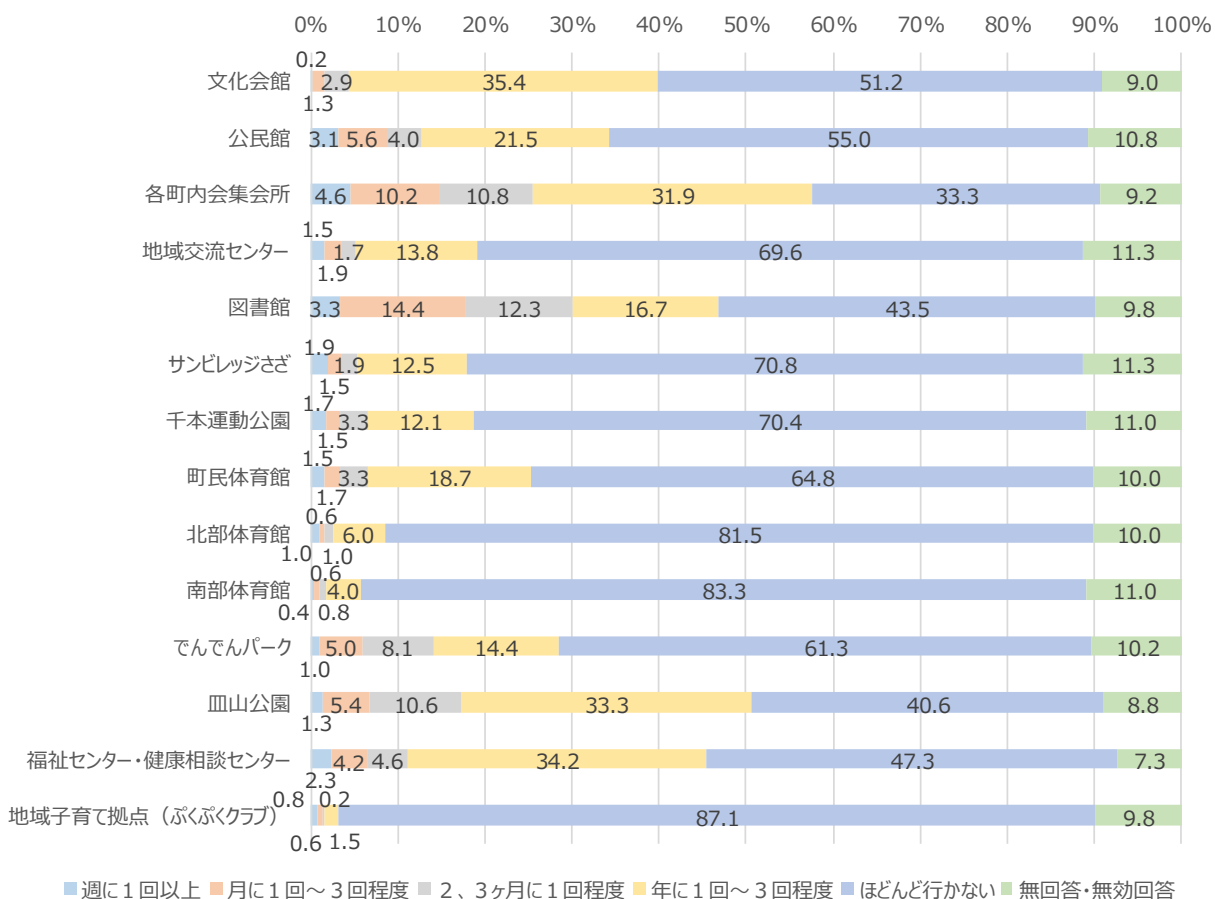
・ 60歳未満、60歳以上ともに、全体とほぼ同様の傾向を示している。



(問8) 過去1年間における施設の利用回数

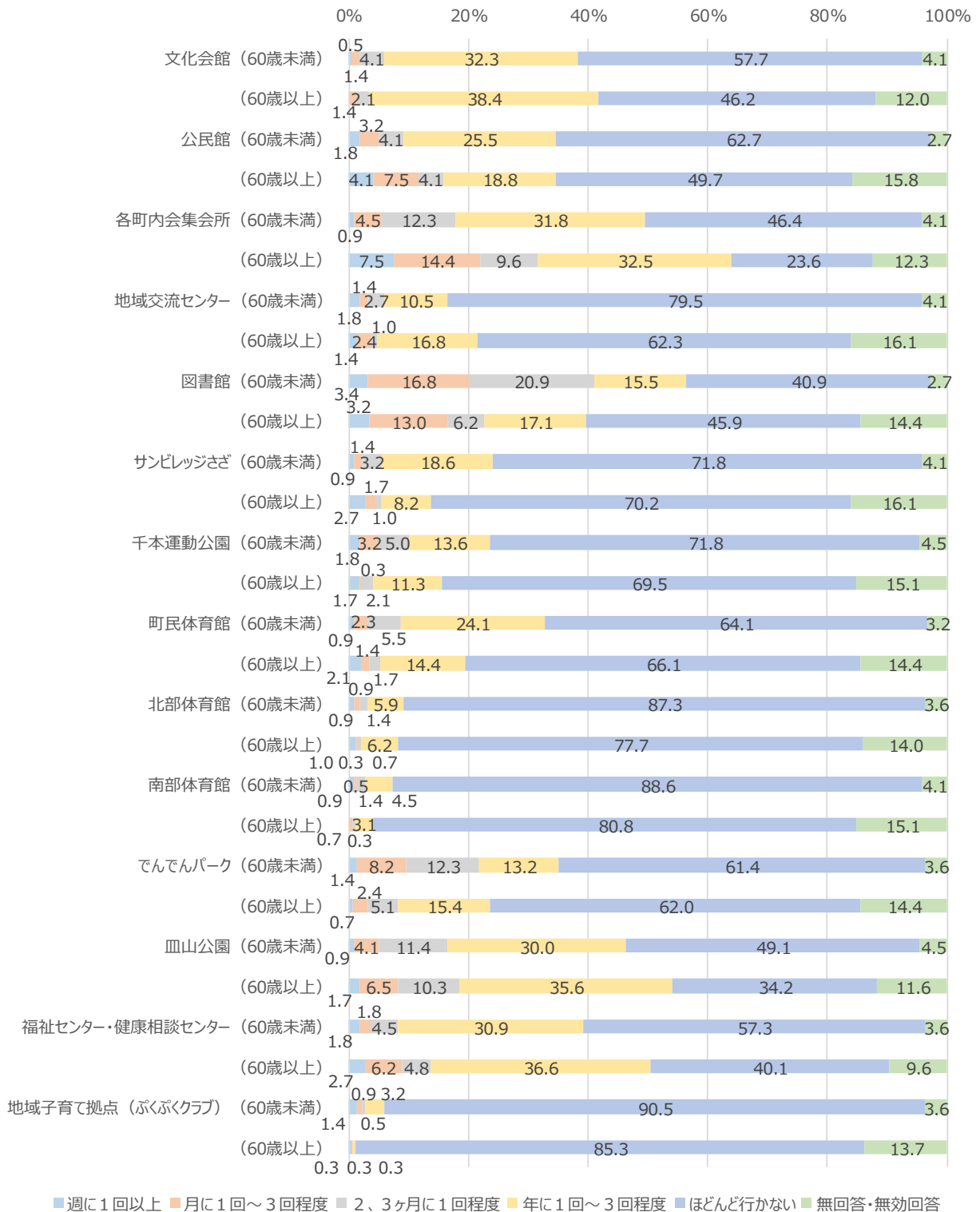
(全体)

- ・ 北部体育館、南部体育館、ぶくぶくクラブについては、8割を超える人が「ほとんど行かない」と回答している。
- ・ 町内集会所、皿山公園、図書館、福祉センター・健康センターについては、年に1回以上の利用（「週に1回以上」から「年に1回～3回程度」までの合計）が、4～5割となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

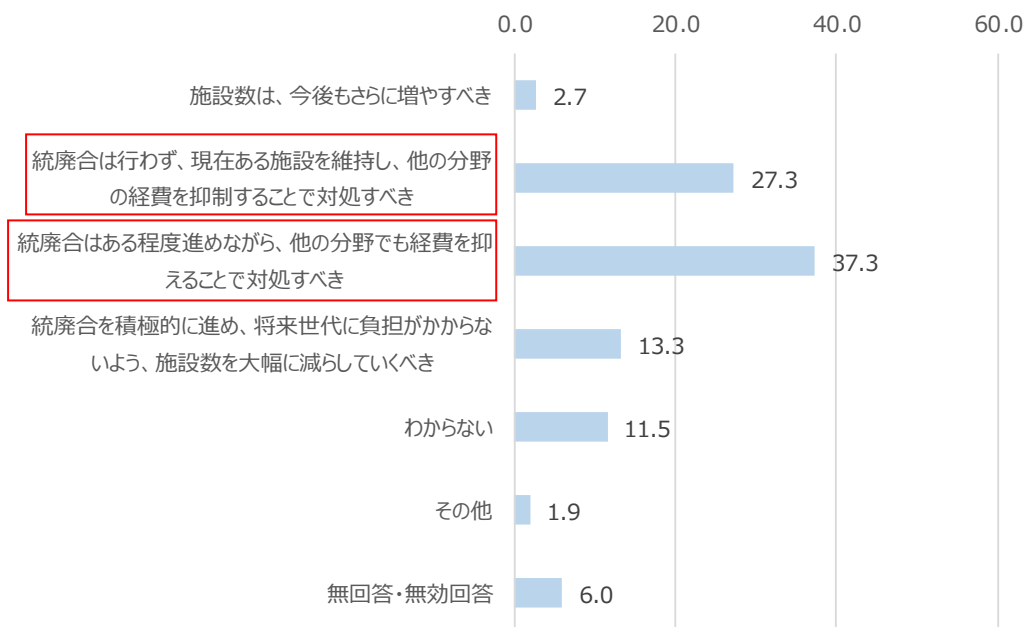
- ・ 60歳未満では、「図書館」の利用回数が60歳以上に比べて多くなっている一方、60歳以上では、「各町内会集会所」の利用回数が多くっており、60歳以上の者においては、町内会行事を含め、地域のつながりを大事にする傾向が表れている。



(問9) 今後の公共施設のあり方

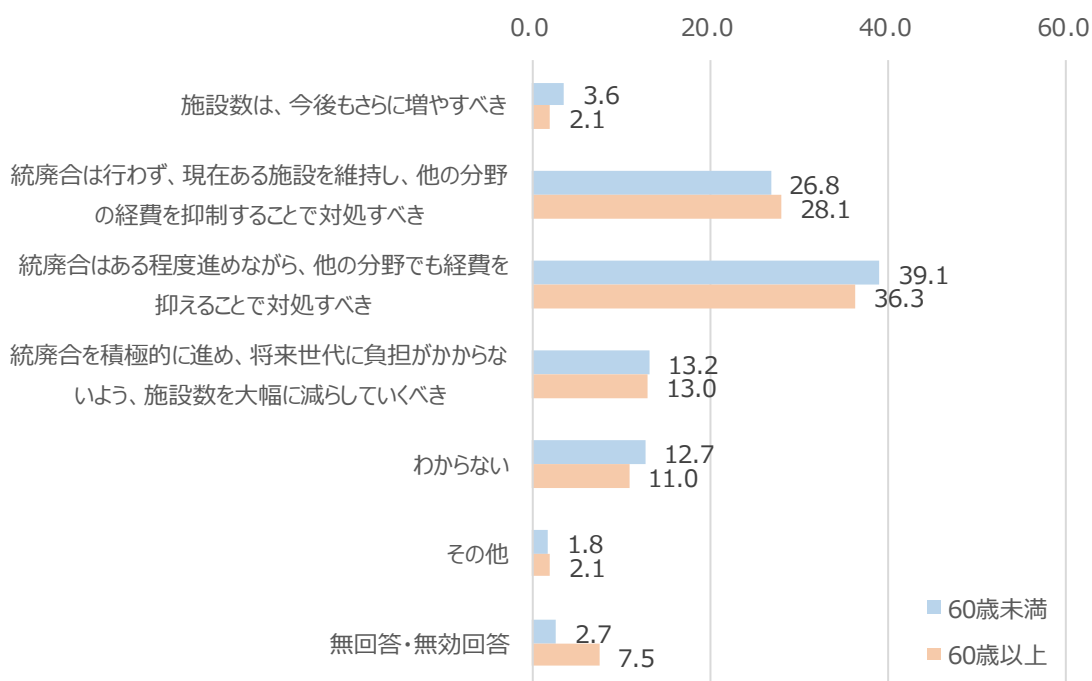
(全体)

- ・ 第1位は「統廃合はある程度進めながら、他の分野でも経費を抑えることで対処すべきであり、施設数の減少によって多少の不便が生じることは仕方ないと思う」となっている。
- ・ 第2位は「統廃合は行わず、現在ある施設を維持すべきであり、他の分野の経費を抑制することで対処すべきである」となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

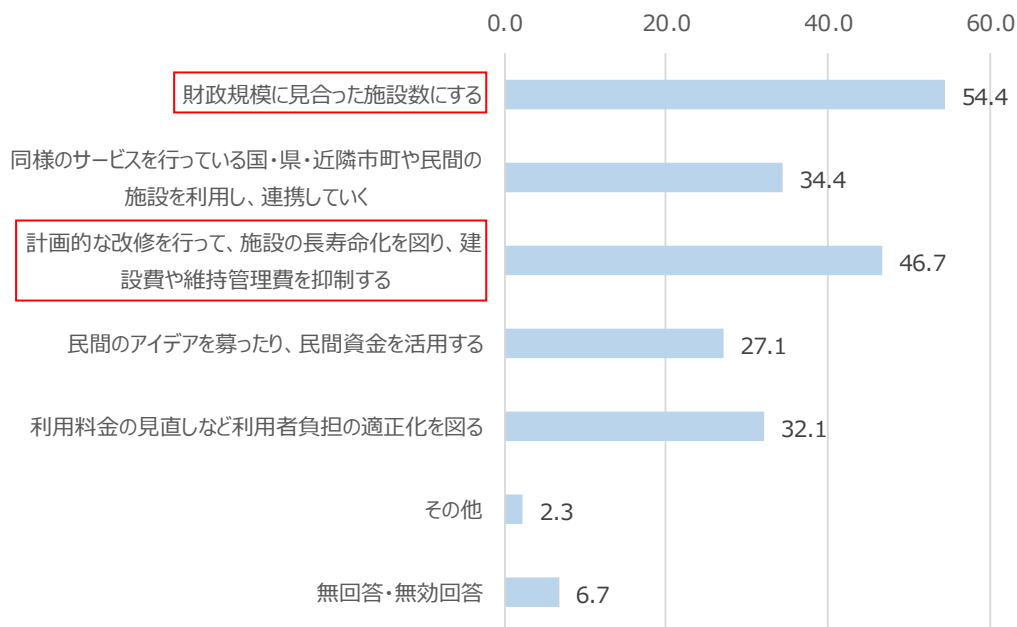
- ・ 60歳未満、60歳以上ともに、全体とほぼ同様の傾向を示している。



(問 10) 公共施設の建替えや維持管理に必要な財源の不足への対応

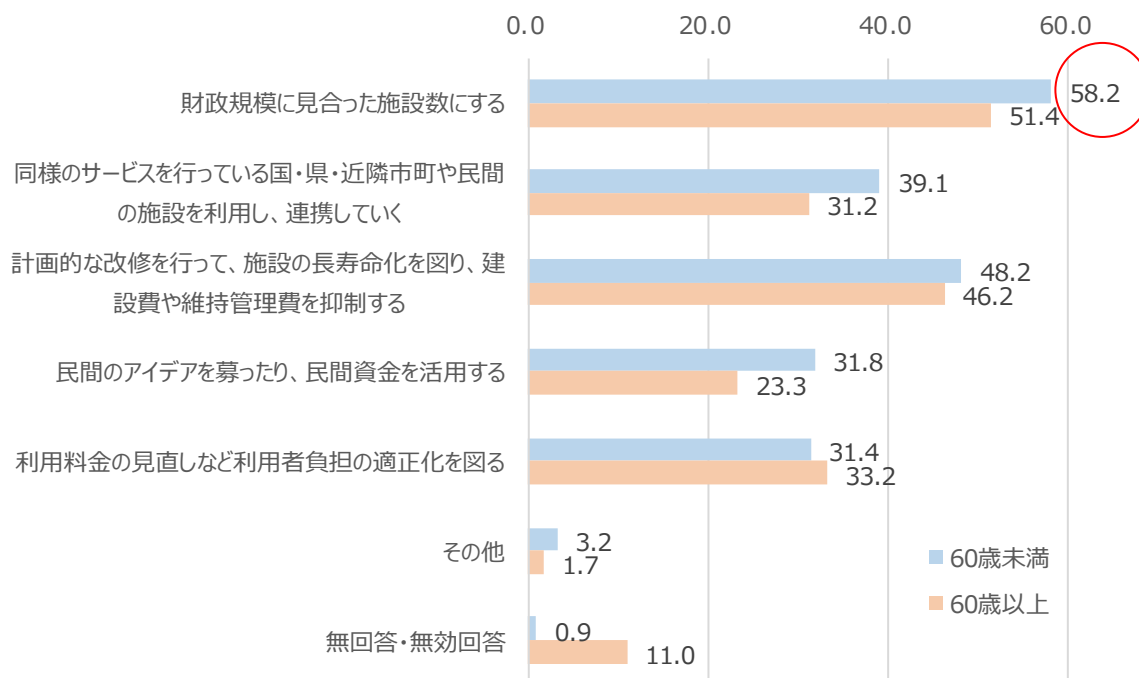
(全体)

- ・ 第1位は「財政規模に見合った施設数にする」(54.4%)となっている。第2位は「計画的な改修を行って、施設の長寿命化を図り、建設費や維持管理費を抑制する」(46.7%)となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・ 60歳未満では、「財政規模に見合った施設数にする」と回答した割合が比較的高く、将来的なコストも見据えた持続的な行政運営を望む声が多いことがうかがえる。
- ・ 60歳以上では、全体とほぼ同様の傾向を示している。

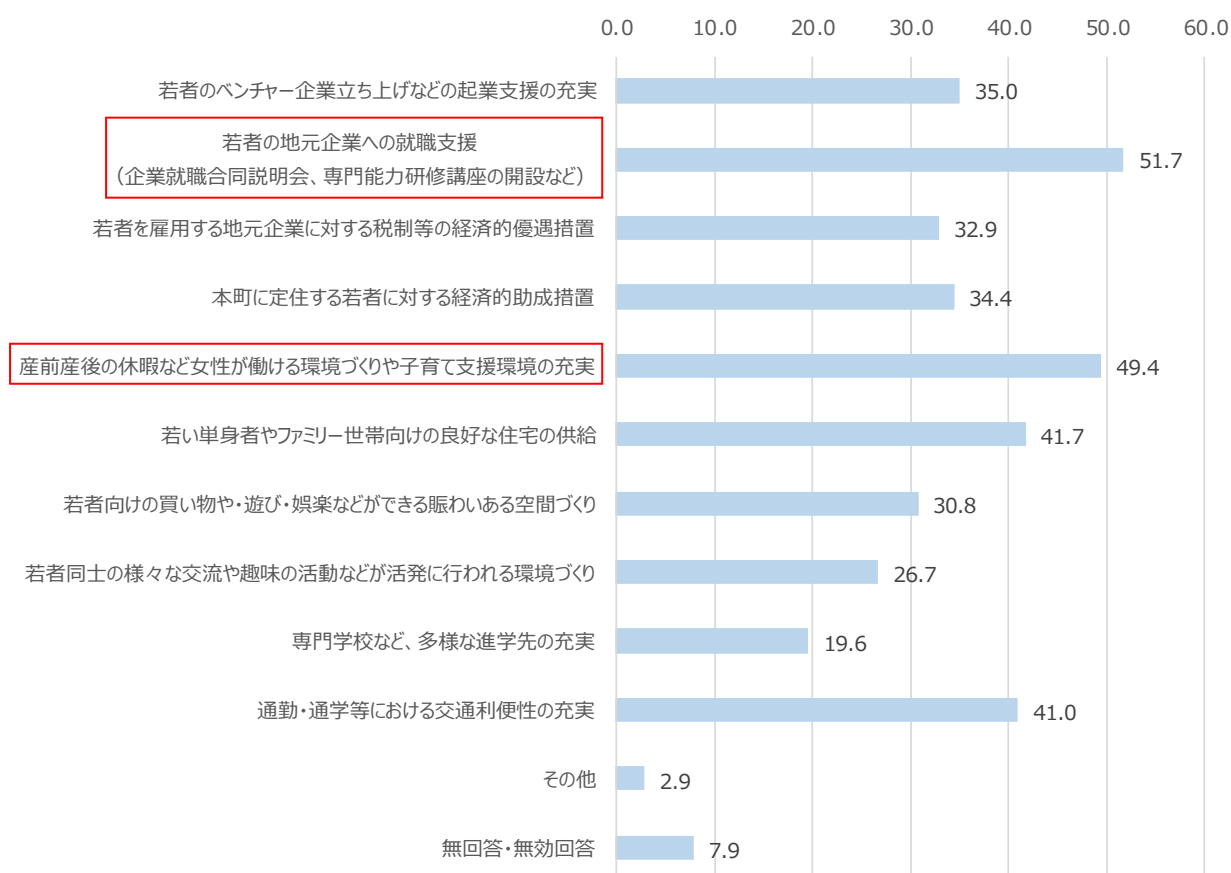


4-6 U・I・Jターンや定住施策について

(問 11) 強化していく必要がある定住施策

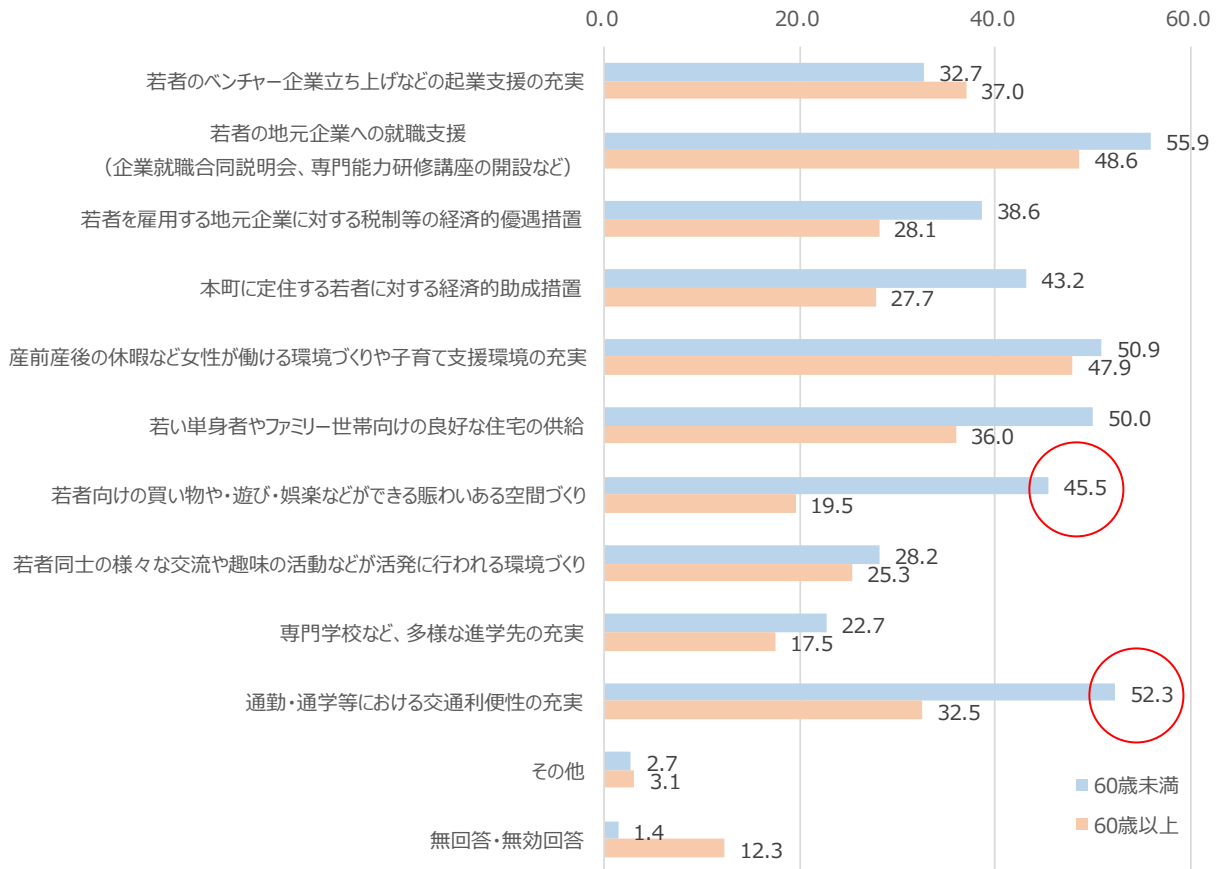
(全体)

- ・ 第1位は「若者の地元企業への就職支援（企業就職合同説明会、専門能力研修講座の開設など）」で51.7%となっている。
- ・ 第2位は「産前産後の休暇など女性が働ける環境づくりや子育て支援環境の充実」（49.4%）となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・ 60歳未満では、「若者向けの買い物や遊び・娯楽などができるにぎわいある空間づくり」、「通勤、通学等における交通利便性の充実」と回答した割合が比較的高く、日常生活の便利さ、快適さを求める声が多いことがうかがえる。
- ・ 60歳以上では、全体とほぼ同様の傾向を示している。

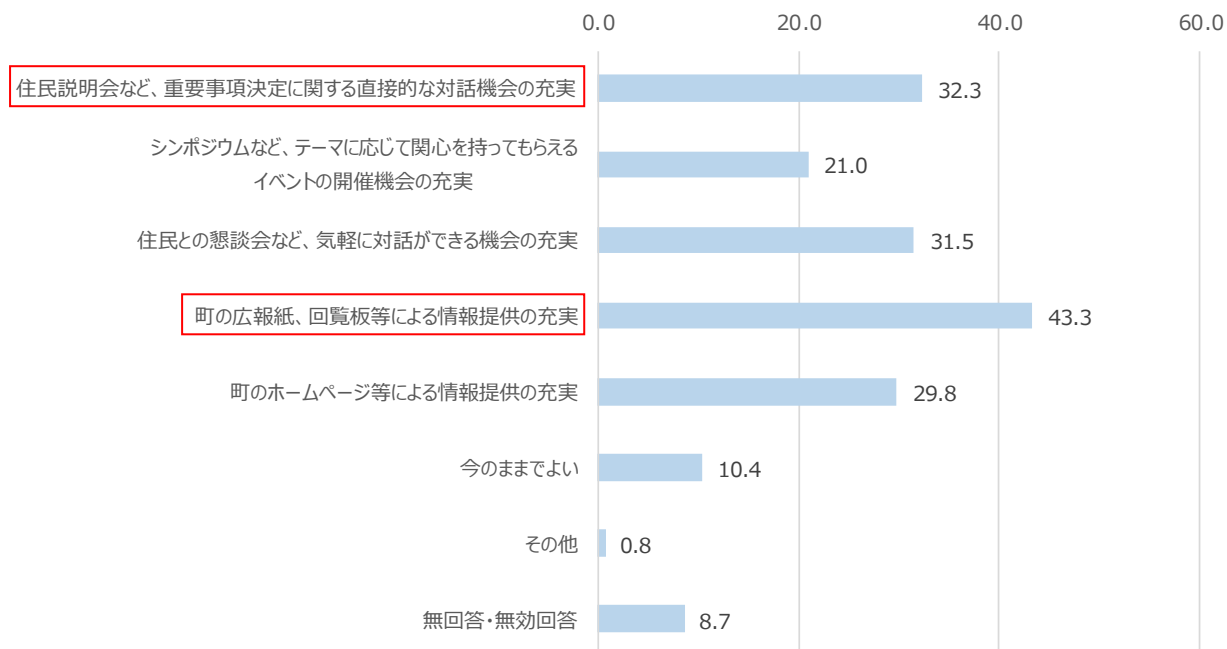


4-7 今後の住民参加について

(問 12) 情報提供について強化すべき取組み

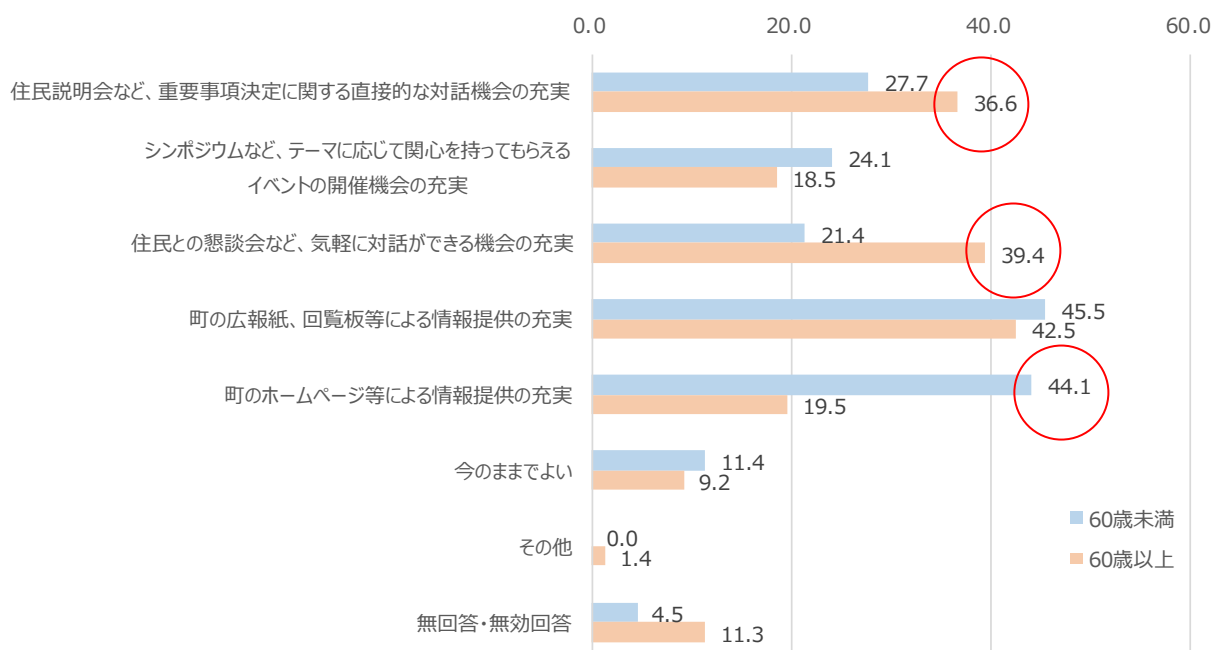
(全体)

- ・ 第1位は「町の広報紙、回覧板等による情報提供の充実」(43.3%)となっている。
- ・ 第2位は「住民説明会など、重要事項決定に関する直接的な対話機会の充実」(32.3%)となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

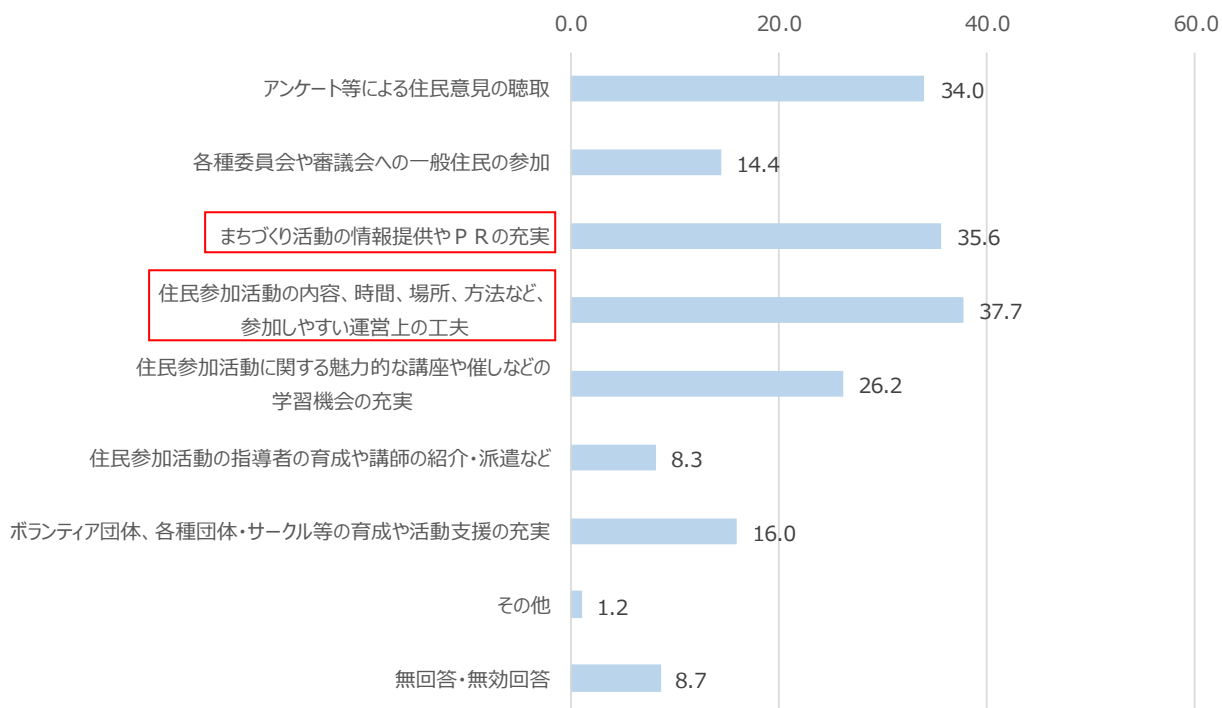
- ・ 60歳未満では、「町のホームページ等による情報提供の充実」と回答した割合が、60歳以上に比べて、非常に高い一方で、60歳以上ではむしろ逆に、直接対話ができる場として「住民説明会」や「懇談会」を求める声が多い結果となっており、それぞれの世代に応じた提供の方法が必要であることがうかがえる。



(問 13) 住民のまちづくりへの参画を図るうえで強化すべき取り組み

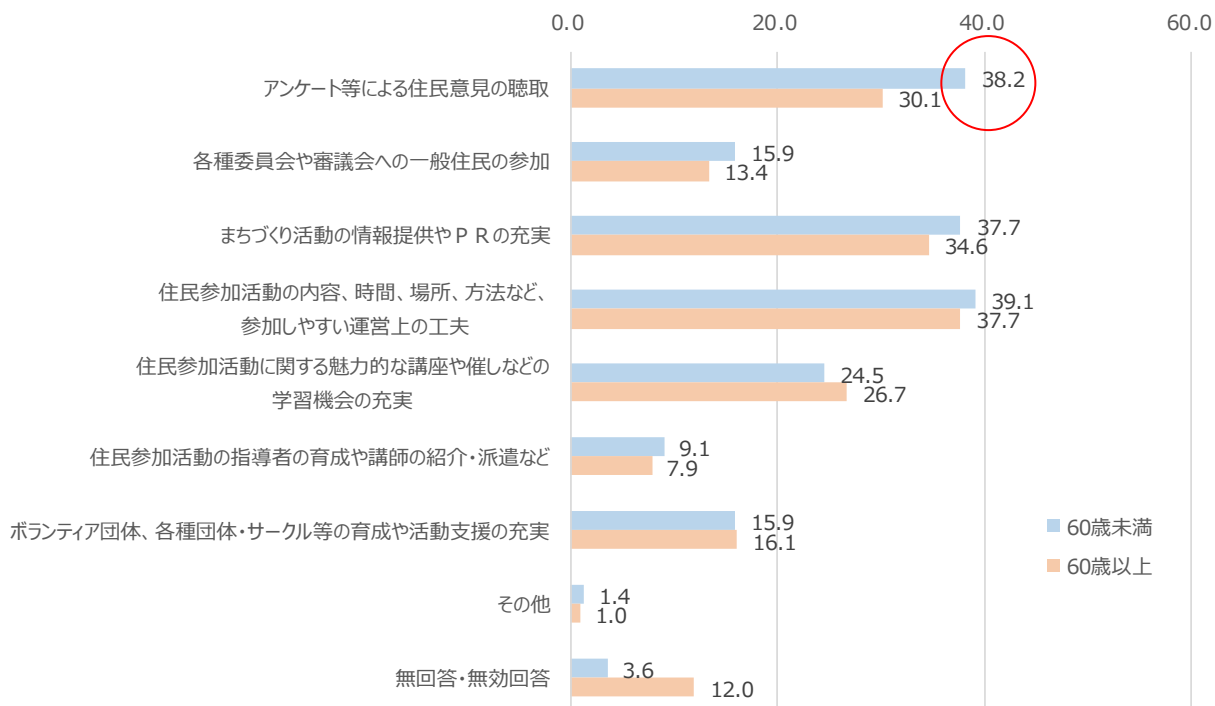
(全体)

- ・ 第 1 位は「住民参加活動の内容、時間、場所、方法など、参加しやすい運営上の工夫」(37.7%) となっている。
- ・ 第 2 位は「まちづくり活動の情報提供や P R の充実」(35.6%) となっている。



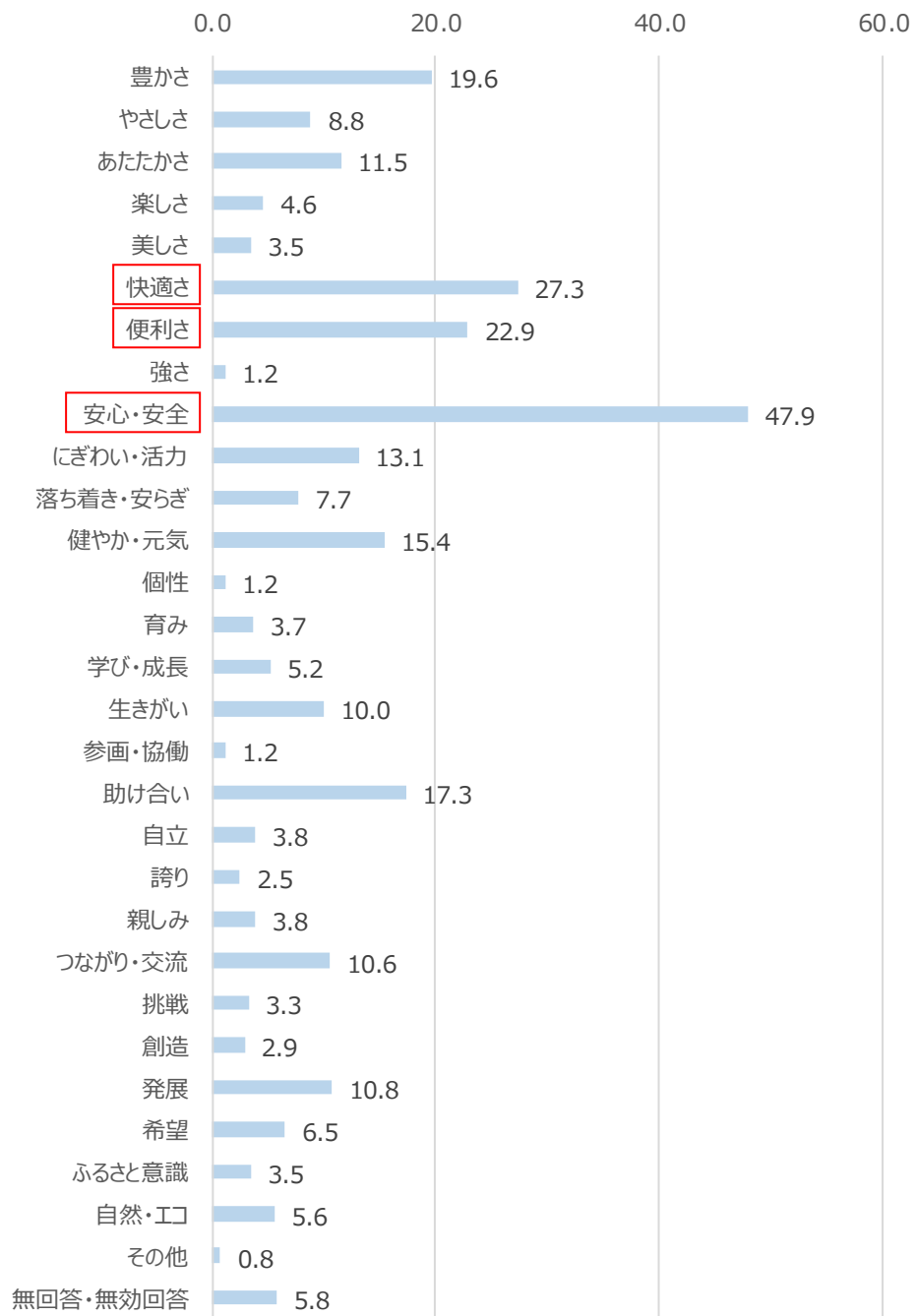
(年齢別：60 歳未満／60 歳以上)

- ・ 60 歳未満では、「アンケート等による住民意見の聴取」と回答した割合が比較的高く、住民意見を聴取する機会として関心が高いことがうかがえる。



**(問 14) 佐々町がめざすまちの姿を表すものとして、どのような「言葉（キーワード）」がふさわしいか
(全体)**

・ 上位3つは「安心・安全」(47.9%)、「快適さ」(27.3%)、「便利さ」(22.9%)となっている。



(年齢別：60歳未満／60歳以上)

- ・60歳未満では、「快適さ」「便利さ」と回答した割合が比較的高く、60歳以上では「助け合い」と回答した割合が高くなっており、各世代が重要と考える分野のキーワードが反映されていることがうかがえる。

